講 義 概 要

2025 年度　理学療法学科

1 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校

理学療法学科

《基礎分野》　＝科学的思考の基盤・人間と生活＝

科目名 Course title	**外国語Ⅰ（医学英語）※選択必修**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森　拓也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	医療分野において医療英語の理解は必要不可欠である。リハビリテーション医療分野においても例外ではない。近年、科学的根拠をもとにした治療が求められる中、その科学的根拠を示すものは国際的な論文が多い現状がある。本講義では医療英語の基礎と国際雑誌の読み方を解説し、リハビリテーション医療にかかわる論文に慣れ親しみ、読解方法を得る能力を養うことを目標とする。また、併せて、臨床業務上必要不可欠な医療英語についても学習する。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション：医療英語とは臨床英語＆論文読解 ２　医療英語を用いた論文の検索方法　国際雑誌の選定 ３　Original Article（原著論文）Case Report（症例報告）Review Article（総説）とは ４　医学英語論文の種類と Title の表現　Title から読み取る論文の良し悪し ５　Abstract とは？　Informative Abstract と Indicative Abstract ６　Summary　症例報告の Summary　総説の Summary ７　Introduction の読み方 ８　Materials and Methods と Results の読み方 1 ９　Materials and Methods と Results の読み方 2 １０　Discussion の読み方 １１　Conclusion References　Acknowledgement の読み方 １２　論文を読んでみよう（グループワーク） １３　論文を読んでみよう（グループワーク） １４　臨床上必須英語・診療上常用英語 １５　総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「必ず読めるようになる医学英語論文」　金原出版		
備 考 Other Comments	適宜資料を配布して授業を進める		

科目名 Course title	外国語Ⅱ（医学日本語）※選択必修	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	（日本語科教員　作業療法学科教員）	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	留学生を対象に日本語能力試験１級レベルの言語知識、読解、聴解能力の強化および１年次の解剖学、生理学、運動学の授業に進捗に合わせ基本的な医学用語の語彙力を強化することを目的とする。		
授業計画 Course Content	１　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　言語知識_文字/語彙①＆文法① ２　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　言語知識_文字/語彙②＆文法② ３　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　言語知識_文法③＆読解① ４　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　言語知識_文法④＆読解② ５　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　読解③＆聴解① ６　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　読解④＆聴解② ７　日本語能力試験Ｎ1 対策講座　模擬試験 ８　解剖学用語　総論 ９　解剖学用語　骨 １０　解剖学用語　関節 １１　解剖学用語　靭帯 １２　生理学用語　総論 １３　生理学用語　細胞の構造と機能　神経系 １４　生理学用語　循環器系 １５　生理学用語　呼吸器系		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**教育学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高木　琳太郎	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	私たちが関わってきた（関わっている）教育を考えてみることを通して、私たちがほかの人々、物事とともに生きてきた（生きている）日常・社会・世界・関係性について、立ち止まって考えてみる。		
授業計画 Course Content	１　階段のぼりと勉強 ２　階段のぼりと勉強 ３　狼に育てられた子ども ４　狼に育てられた子ども ５　養生 ６　養生 ７　「生命場」 ８　まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	レポート試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**公衆衛生学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	三宅　眞理	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床医学が個人の疾病を対象とするのに対して、公衆衛生学は集団の健康を対象とする。衛生学および公衆衛生は人間の健康に関係するあらゆる事象を研究し健康の維持増進をはかる学問である。「公衆」はどういう集団を指すのか具体的な事象と対策、法規を学び、将来の健康づくりと疾病の予防に貢献できる力を養う。特に、公衆衛生に関する法規の領域は極めて広く、保健医療の専門職には周知が必要である。各領域について、発展の過程や仕組み、現状と対策などから講義する。 一般目標（GIO）：現代社会のおける公衆衛生の理解を深め、自らの疾病の予防と健康作りを心がけ保健医療の専門職として国民の健康増進に貢献できる力をつける。 行動目標（SBOs）： ①公衆衛生学の必要性と重要性を説明できる。 ②健康の指標について理解し、疫学・保健統計から説明できる。 ③感染症の基礎知識、予防対策、感染症法、食中毒などについて理解し予防を実践できる。 ④地域環境保全、公害、身の回りの環境衛生と健康について理解し実践できる力を養成する。 ⑤超高齢化社会における社会保障・医療介護の制度について理解を深め活用できる力を養成する。 ⑥地域保健活動、母子保健、学校保健について理解し実践できる力を養成する。 ⑦心疾患、脳卒中、糖尿病などの生活習慣病の予防理解し、健康教育が実践できる力を養成する。 ⑧精神保健福祉と産業保健のこれまでの背景と現状を理解し、保険医療の専門家として、公衆衛生活動を実践できる力を養成する。		
授業計画 Course Content	１　衛生・公衆衛生学序論 ２　保健統計・疫学 ３　感染症対策・国際保健・災害医療と健康危機管理 ４　環境保健・地域保健と保健行政 ５　母子保健・学校保健 ６　成人保健・産業保健 ７　高齢者の保健・医療・介護 ８　精神保健・障害者の保健・難病対策		
成績評価等	定期試験　６０点で合格		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	コミュニケーション学	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森川 あやこ 荻野 佐代子 勝村　智加	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】患者や対象者や、チーム医療を成す関係者および実習指導者との関わりに必要なコミュニケーションについて学習する。また手段としては言語・非言語を用いたコミュニケーションについて学習する。 【到達目標】 ・コミュニケーションの必要性、および場面・状況に応じたコミュニケーションの方法について説明でき、また実施できる。 ・対象者や医療福祉の関係者（実習指導者を含む）と良好な関係を築くためのコミュニケーションが実施できる。 ・患者・対象者の情報を収集するために医療面接が実施できる。		
授業計画 Course Content	１　コミュニケーションをスムーズにする土台について ２　印象の重要性 ３　聴くことの重要性 ４　自己表現の理解と演習 ５　コミュニケーションの意思疎通、情報伝達 ６　手話の基礎知識（聴覚障碍者のコミュニケーションを知る） ７　名前、家族を表してみましょう ８　数字を使って表してみましょう（疑問詞の表し方を知る） ９　住所を表してみましょう（方向、指さしの活用を知る） １０～１５　実習で必要なコミュニケーション 医療面接　傾聴実践 ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、提出物、筆記試験で総合的に評価する。		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**情報処理学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	徳永　怜	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	「情報処理学」では、基本的なパソコンの操作を習得し、報告書・レポートの作成やプレゼンテーションが行えるようになることを目的としています。具体的には、Word や Excel を利用した文書の作成、表計算、グラフの作成です（Power　Point を用いた資料の作成は、授業の進行状況に応じて、実施の可否を判断します）。 授業は、パソコンを用いた実習形式で行います。課題作成に関する質問は受け付けますが、最終的には自分で Word や Excel を利用して報告書・レポートの作成ができるように、主体的に取り組むことを求めます。		
授業計画 Course Content	１　Word の基本操作（１）: 基本的な文書作成、文書の編集 ２　Word の基本操作（２）:　表の作成 ３　Excel の基本操作（１）: 表の作成と計算 ４　Excel の基本操作（２）: 数式・関数の利用 ５　Excel の基本操作（３）: データの入力・編集 ６　Excel の基本操作（４）: グラフの利用 ７　Excel の応用操作 : データベースとしての利用 ８　総復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	「課題の提出」、「単位認定試験」で評価します。 「単位認定試験」は Word、Excel を利用した実技試験を予定しています。 割合については初回の講義にて確認。		
教科書 Textbooks	授業ごとに課題プリントを配付します。		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**心理学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高橋　京子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	知覚、感情など、人の様々な側面を通して、人間の心や行動を理解する心理学の基礎を学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション ２　心理学の変遷 ３　学習と行動 ４　知覚・感覚 ５　思考 ６　記憶と忘却 ７　感情 ８　欲求・動機付け ９　知能 １０　性格 １１　発達① １２　発達② １３　発達③ １４　発達④ １５　社会		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席・コメントペーパー、期末テスト		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論　第３版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**統計学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森谷　伸樹	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法の EBM に必要な統計学について学ぶ。統計処理の基礎を学ぶこと、理学療法士国家試験に頻出の知識について触れること、研究内容に応じて統計処理を選択できることを到達目標とする。		
授業計画 Course Content	１　統計学の基礎、データの尺度・特性値・グラフ ２　推定と検定の基礎、2 標本の差の検定ーパラメトリック法(1) ３　1 標本の差の検定ーパラメトリック法(2)、差の検定ーノンパラメトリック法(1) ４　相関、回帰分析 ５　重回帰分析、分割表の検定 ６　一元配置分散分析、反復測定の分散分析 ７　信頼性係数、多重ロジスティック回帰分析 ８　検査値の判断指標、まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	リハビリテーション統計学　　中山書店		
備 考 Other Comments	講義を中心に実施する。		
実務経験内容	森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**人間工学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	坂本　清美	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	居住空間や生活機器を使いやすく安全で快適につくることが、今強く求められている。老若男女、少数派・多数派を問わず、豊かで健康的な生活を送るためには必要不可欠なことである。それを実現するためには、こうした空間や機器が、人間そのものに適合するようにデザインされなければならない。 人間工学はそれを支援する学問分野である。すなわち、生活を営む人間の形態や生理的心理的機能を明らかにし、それを機器や環境の設計に結び付けていくことを目的としている。その点、これからの設計者やデザイナーに必要不可欠な素養といえる。 講義では、居住空間や住宅設備・生活機器等を設計していく上でぜひ考慮しなければならない人間の諸機能・諸特性について論じ、設計のガイドラインや方法を紹介していく。毎回 1 つのテーマをとりあげ解説していく。		
授業計画 Course Content	１　人間工学とは何か:人間工学の対像事例、必要性、学問領域 ２　人間工学の具体化例(イスのデザイン) ３　人体寸法とデザイン:人間の寸法と形の理解 ４　運動機能と身体負担:筋肉の機能や特性の理解 ５　感覚の種類と視覚機能:盛覚の種類、及び視覚機能の理解 ６　視覚の生理と心理:視覚や認知の特性の理解 ７　認知人間工学:わかりやすさのデザイン授業計画 ８　ヒューマンエラーと安全設計:生活機器の事故事例の紹介と安全設計 ９　疲労･ストレスと快適性デザイン １０　ユニバーサルデザインと人間工学(1) １１　ユニバーサルデザインと人間工学(2):高齢者の UD、UX(ユーザエクスピアレンス) １２　情報デザインと人間工学 １３　人間工学的デザインの実際:機器,住宅,オフィス １４　人間工学の今後 １５　まとめ(第 1 回目～14 回目)		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	単位認定試験 100% 課題は選択肢問題の予定 選択肢問題は 20 問あり、配点は各 5 点です。合計で 100 点		
教科書 Textbooks	初めて学ぶ人間工学(2016/1/1) 出版社:理工図書 著者:岡田 明、後藤 義明、八木 佳子、他		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**物理学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	大又　巧也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	物体に力を加えると、物体は力の大きさに比例し、質量に反比例する大きさの加速度で運動が変化します。物体を人体として考えることで自分が動いたり他人を動かしたりする事と力の関係がわかるようになればリハビリテーションに役立ちます。物理の法則を使って見えない力を知り、２つ以上の力を組合せたり、又力を無効にすることを、実際に日常の活動として理解できるようになることがねらいです。		
授業計画 Course Content	１　物理量とその表し方、ベクトルとスカラー ２　いろいろな運動と力 ３　力のつり合いと運動の法則 ４　物体の重心と回転運動 ５　力のモーメント① ６　力のモーメント② ７　運動、仕事のエネルギー ８　演習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「ＰＴ・ＯＴ ゼロからの物理学」　羊土社		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**保健体育**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	山口　典孝・森山　琢磨	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	自身の現体力を把握し、運動方法や運動の意義などを考える。さらには生活習慣病と運動の重要性を理解し、生活習慣病予防に役立てていく。		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション、ドッチボール ２　ショートテニス ３　卓球 ４　バスケットボール ５　ショートテニス ６　バレーボール ７　バスケットボール ８　ショートテニス ９　ショートテニス １０　卓球 １１　フットサル １２　卓球 １３　ショートテニス １４　ショートテニス １５　フットサル		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	活動点		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

《専門基礎分野》＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	**解剖学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	柴田　雅朗	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	人体を構成する器官のうち、骨格と関節・靭帯について学ぶ。 各部位の名称とともに、その構造や働きについて理解する。		
授業計画 Course Content	１　骨学総論　骨格の分類　骨の形態・分類・構造、骨の血管と神経、骨の機能 ２　骨学総論　骨発生（軟骨内骨化と膜内骨化）と骨のリモデリング ３　骨学各論　頭蓋骨：顔面頭蓋、脳頭蓋 ４　骨学各論　頭蓋骨：内頭蓋底と外頭蓋底、新生児の頭蓋冠 ５　骨学各論　脊柱：脊柱の全景、各椎骨の特徴 ６　骨学各論　胸郭：胸郭の全景、構成する骨の特徴（胸椎、胸骨、肋骨） ７　骨学各論　上肢骨：上肢帯骨（鎖骨、肩甲骨） ８　骨学各論　上肢骨：自由上肢骨（上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨、指骨） ９　骨学各論　下肢骨：下肢帯（寛骨、骨盤） １０　骨学各論　下肢骨：自由下肢骨（大腿骨、膝蓋骨、脛骨、腓骨、足根骨） １１　骨学復習１ １２　骨学復習２ １３　関節・靭帯総論　関節の連結様式による分類と運動軸、基本構造、関節の機能 １４　関節・靭帯各論　頭蓋の縫合、顎関節 １５　関節・靭帯各論　脊柱の連結（関節）、脊柱の運動 １６　関節・靭帯各論　胸郭の連結（関節）、胸郭の運動 １７　関節・靭帯各論　上肢：上肢帯の連結、自由上肢骨の連結、肩関節の運動 １８　関節・靭帯各論　上肢：肘関節と靭帯、橈骨と尺骨の連結、関節の運動 １９　関節・靭帯各論　上肢：手関節、手根骨の関節、指節間関節、関節の運動 ２０　関節実習（顎関節、環椎後頭関節、環軸関節、肋椎関節） ２１　関節・靭帯各論　下肢：下肢帯の連結、自由下肢骨の連結１、股関節の運動 ２２　関節・靭帯各論　下肢：自由下肢の連結２（膝関節、脛腓関節、足関節、足根骨の関節）、関節の運動、関節・靭帯の復習１ ２３　関節・靭帯の復習２		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第５版」　医学書院 「ネッター解剖学アトラス　原著第７版」　南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**解剖学Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	柴田　雅朗	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	全身の筋を知り、起始・停止の部位から作用を理解できる。 神経の基本構造を知り、筋・臓器との関連を理解できる。伝導路の構成を理解できる。		
授業計画 Course Content	１　筋学総論　骨格筋組織、筋の構造と形態による分類、筋の補助装置、運動単位 ２　筋学各論　上肢の筋（上肢帯、上腕の筋） ３　上肢の筋（前腕、手の筋） ４　下肢の筋（下肢帯、大腿、下腿の筋） ５　下肢の筋（足の筋） ６　体幹の筋（頭頸部の筋） ７　体幹の筋（背部、胸部、腹部の筋） ８　筋学実習　（骨格標本と筋のペーパーモデルを用いて） ９　神経学総論（神経組織、神経系の分類と構成） １０　神経学総論（神経系の発生、脊髄と脳の発生、末梢神経系の発生） １１　神経学各論　中枢神経系（脊髄） １２　中枢神経系（脳幹、小脳） １３　中枢神経系（間脳、終脳） １４　中枢神経系（終脳） １５　末梢神経系（脊髄神経） １６　末梢神経系（脊髄神経） １７　末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路） １８　末梢神経系（脳神経、視覚・嗅覚・味覚の伝導路） １９　末梢神経系（自律神経） ２０　伝導路（下行性：錐体路と錐体外路） ２１　伝導路（上行性：感覚の伝導路） ２２　伝導路（上行性：感覚の伝導路） ２３　復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第５版」　医学書院 「ネッター解剖学アトラス　原著第７版」　南江堂		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**解剖学Ⅲ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田　裕子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅲでは、人体と細胞についての基礎知識、酸素を運ぶ血液の循環と心臓、栄養の消化と吸収を行う消化器系を学ぶ。 以下の項目を、スライドを使いながら説明し、資料プリントや練習問題を配布して理解を深めて行きたい。		
授業計画 Course Content	１　DVD「驚異の人体機能」：体全体を概観する ２　細胞の構造：人体の区分、細胞小器官、細胞膜 ３　細胞分裂、組織：上肢組織 ４　組織：支持組織、筋組織、神経組織 ５　血管の構造、吻合、心臓の構造、冠状循環 ６　刺激伝導系、体循環系動脈（総頚動脈、外頚動脈） ７　動脈：脳、上肢、胸部、腹部、下肢 ８　静脈：脳、上肢、奇静脈系 ９　静脈：門脈系、下肢の静脈、胎児の循環 １０　リンパ系：リンパ本幹、リンパ節　胸腺、脾臓 １１　消化器系①：歯、舌、唾液腺、咽頭 １２　消化器系②：嚥下、食道、胃、十二指腸 １３　消化器系③：小腸の構造、大腸の構造 １４　消化器系④：肝臓、膵臓、胆道 １５　腹膜、間膜		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（１００％）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス　原著第７版」　南江堂 「日本人体解剖学　下巻　改訂２０版」　南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	解剖学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田　裕子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	正常な人体の構造と機能に関する基礎知識を習得する事は、医療に従事する者において、きわめて重要である。解剖学Ⅳでは、体液の調節と尿の生成を行う泌尿器系、種を保存する働きをする生殖器系生体機能を調節する器官として内分泌系を、受容と応答という観点から感覚器系を学ぶ。 以下の項目をスライドで説明し、資料プリントや問題を配布して、理解を深めていきたい。		
授業計画 Course Content	１　肝臓・膵臓の機能・構造、腹膜 ２　呼吸器系：鼻、咽頭、喉頭 ３　呼吸器系：気管、気管支、肺、胸膜、呼吸の仕組み ４　泌尿器系：腎小体、尿細管 ５　泌尿器系・男性生殖器：腎の機能、排尿の仕組み、男性生殖器、精巣 ６　男性生殖器：精子の発生、陰嚢、尿道、付属器官、陰茎 ７　女性生殖器：卵巣、卵子の発生、黄体、月経周期、膣 ８　女性生殖器：外陰部、会陰、ヒトの発生、胎盤 ９　内分泌系：下垂体、視床下部、松果体、甲状腺 １０　内分泌系：甲状腺の病気、血中カルシウム濃度調整ホルモン、副腎皮質 １１　抗ストレス作用、性ホルモン、感覚器、外皮の構造 １２　角質器、体性神経、視覚器（眼球壁、脈絡膜、毛様体） １３　視覚器（虹彩、網膜、水晶体、眼筋）　耳（外耳、鼓膜） １４　眼：眼の付属器官　耳：外耳、鼓膜 １５　耳：中耳、内耳の構造		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講後試験を行う。（１００％）		
教科書 Textbooks	「ネッター解剖学アトラス　原著第７版」　南江堂 「日本人体解剖学　下巻　改訂２０版」　南山堂		
備 考 Other Comments	器官系ごとに問題を配布する。		

科目名 Course title	**基礎運動学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	福永　宣典	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【運動器の基本的構造とその機能について学習する。 人間の基本運動の機構を科学的に分析するために必要な力について学習する.		
授業計画 Course Content	**Chapter１ 運動器の構造と機能** １．骨の構造と機能 ２．関節の構造と機能　※一部生体力学の基礎を含む ３．骨格筋 ４．身体運動のエネルギー代謝 **Chapter２ 生体力学の基礎** １．身体運動の面と軸 ２．筋の活動張力と重力 ３．ベクトル ４．トルク、モーメント ５．重心 ６．床反力 ７．仕事 ８．てこの種類 ９．滑車		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第７版」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験９年及び専任教員２８年の経験を有する。		

科目名 Course title	**基礎運動学Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高山 弘幹	期間及び単位 Term/Credits	１年次 前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】下肢（骨盤含む）について、骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。 【到達目標】 ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節の骨運動および関節運動を説明できる。 ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節の筋の作用を説明できる。 ・股関節・膝関節・足関節・足趾の関節運動の制限因子について説明できる。		
授業計画 Course Content	１　股関節の骨指標・関節包内運動・構成運動 ２　大腿骨の頚体角・前捻角、Sharp 角・CE 角・ローザーネラトン線 ３　股関節筋の靭帯・関節唇の機能、スカルパ三角 ４　股関節筋の機能、関節中心と筋のベクトル ５　股関節運動の制限因子、腰部・骨盤運動と股関節の関係性、股関節トルクと体重のつり合い ６　膝関節の骨・靭帯、FTA、ミクリッツ線 ７　膝の運動学（転がり滑り、Screw-home movement、Roll back） ８　前十字靭帯・後十字靭帯・側副靭帯の機能、膝蓋大腿関節の運動学 ９　膝関節関節の筋機能、膝関節剪断力について １０　足関節・足部の骨・靭帯、Leg　Heel Angle １１　足関節の運動 １２　足部の運動、距腿・距骨下関節に作用する筋肉 １３　足部内在筋、クロスサポートメカニズム、ウィンドラス・トラス機構 １４　縦アーチと横アーチ １５　運動連鎖（上行性・下行制、OKC・CKC） ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験（80%） 小テスト（20%） ※小テストは２回目以降の授業開始時に実施予定		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第７版」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	**基礎運動学Ⅲ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	木屋　和奈	期間及び単位 Term/Credits	１年次 後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】上肢について、骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。 【到達目標】 ・肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の関節の骨運動および関節運動を説明できる。 ・肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の筋の作用を説明できる。 ・肩関節（肩甲帯含む）・肘関節（前腕含む）・手関節・手指の制限因子について説明できる。		
授業計画 Course Content	１　上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 ２　上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 ３　上肢帯と上肢の運動：肩甲帯 ４　上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 ５　上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 ６　上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 ７　上肢帯と上肢の運動：肩甲上腕関節 ８　上肢帯と上肢の運動：肘関節 ９　上肢帯と上肢の運動：肘関節 １０　上肢帯と上肢の運動：肘関節 １１　上肢帯と上肢の運動：手関節 １２　上肢帯と上肢の運動：手関節 １３　上肢帯と上肢の運動：手指 １４　上肢帯と上肢の運動：手指 １５　上肢帯と上肢の運動：手指 ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第７版」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。		

科目名 Course title	基礎運動学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】頭頚部・体幹・顔面の運動、および歩行について学習する。 頭頚部・体幹については骨運動や関節運動、および筋の作用、その他の身体への応用を学習する。 歩行については概要、運動、筋活動について学習する。 【到達目標】 ・頭頚部・体幹の各関節の骨運動や関節運動ついて説明できる。 ・頭頚部・体幹の各関節の筋の作用について説明できる。 ・顔面筋の作用・開口閉口について説明できる。 ・歩行周期について説明することができる。 ・歩行の重心移動や決定因子について説明できる。 ・歩行の関節角度について説明できる。 ・歩行の筋活動について説明できる。 ・歩行の関節モーメントについて説明できる。 ・歩行に関連する用語について説明することができる。		
授業計画 Course Content	１　脊柱の運動学：腰椎 ２　脊柱の運動学：胸椎・胸郭 ３　脊柱の運動学：頸椎 ４　顔面の運動学 ５　姿勢　力学の基礎（重心と筋活動、床反力と筋活動） ６　安静時立位姿勢と筋活動　立位姿勢制御 ７　歩行　基礎知識　歩行周期 ８　歩行　基礎知識　歩行周期 ９　歩行時の重心とその仕組み １０　歩行　関節角度 １１　歩行　筋活動 １２　歩行　筋活動 １３　歩行　関節モーメント １４　歩行　関節モーメント １５　総復習　国家試験問題		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「基礎運動学　第７版」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**生理学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	山本　知子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	生体の機能・働きとそのメカニズムを学ぶ。細胞の機能から始まり、細胞の集まりである組織、組織の集まりである器官、器官の集まりである個体に至るまで、機能とその統合を理解する。ミクロの視点からマクロの視点へと進み、正常な生命活動を一貫して学ぶ		
授業計画 Course Content （予定）	（以下を 15 回で実施） １　生理学基礎 ①生理学とは　②人体構成要素　③細胞の構造と機能　④細胞膜を隔てた物質移動 ２　神経の機能 ①神経細胞と支持細胞　②シナプス　③活動電位と局所電位　④興奮伝導と興奮伝達 ３　筋肉の機能 ４　神経系の構成 ①反射　②中枢神経と末梢神経　③体性神経と自立神経 ５　自律神経と内臓機能 ①交感神経と副交感神経　②伝達物質と受容体　③神経支配様式と神経各論　④内臓反射と中枢		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）　定期試験、小テスト、レポート		
教科書 Textbooks	「シンプル生理学　改訂第８版」　南江堂		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**生理学Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村　麻里	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。 特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。本科目では、体性神経系と運動の機能、中枢神経系の高次機能、感覚器系の構成と機能について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1.　脊髄・脳幹の構造と機能 2.　体性神経系と運動機能①　脊髄の運動機能 3.　体性神経系と運動機能②　脳幹の運動機能 4.　体性神経系と運動機能③　小脳・間脳の運動機能 5.　体性神経系と運動機能④　大脳基底核の運動機能 6.　体性神経系と運動機能④　錐体路 7.　中枢神経系の高次機能①　新皮質の構造と機能分化 8.　中枢神経系の高次機能②　新皮質連合野の統合機能 9.　中枢神経系の高次機能③　睡眠と覚醒 10.　中枢神経系の高次機能④　辺縁系と視床下部の機能 11.　感覚系の構成と機能①　感覚の一般的性質 12.　感覚系の構成と機能②　体性感覚　内臓感覚 13.　感覚系の構成と機能③　視覚 14.　感覚系の構成と機能④　聴覚と平衡感覚 15.　感覚系の構成と機能⑤　嗅覚と味覚		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 １００点満点中６０点以上で合格とする。		
教科書 Textbooks	教科書「シンプル生理学　改訂第８版」南江堂 参考書「標準生理学　第９版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**生理学Ⅲ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	種村　麻里	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	生理学は、生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。様々な生命活動を営む際に、我々の身体の中ではどのような現象が起きているのか、身体の基本的な仕組みを解き明かすものである。 特に医療に携わる資格を取得するにあたっては解剖学との連携が肝要であり、身体の構造を把握した上で、その生体機能を総合的に理解し、体系的な知識を獲得することが重要となる。 本科目では、血液、消化と吸収、栄養と代謝、内分泌系の機能、生殖について学ぶ。		
授業計画 Course Content	1.　血液の生理①　血液の組成　細胞成分 2.　血液の生理②　血液凝固 3.　血液の生理③　血液型　免疫機構 4.　消化と吸収①　消化管の基本的構造　口腔内と胃内の消化 5.　消化と吸収②　肝胆膵の働き 6.　消化と吸収③　小腸内の消化と吸収 7.　消化と吸収④　大腸の働きと排便　肝臓の機能 8.　栄養と代謝①　基礎代謝と栄養所要量 9.　栄養と代謝②　三大栄養素の中間代謝 10.　内分泌系の機能①　ホルモンの一般的性質と分泌調節 11.　内分泌系の機能②　視床下部、下垂体のホルモン 12.　内分泌系の機能③　甲状腺のホルモンと骨代謝 13.　内分泌系の機能④　膵臓のホルモン 14.　内分泌系の機能⑤　副腎のホルモン 15.　生殖①　精巣、卵巣のホルモンと生殖機能		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	教科書「シンプル生理学　改訂第８版」南江堂 参考書「標準生理学　第９版」医学書院		
備 考 Other Comments	適宜、配布資料により講義を進める		

科目名 Course title	生理学Ⅳ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森　拓也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	生理学Ⅳでは、人体における循環系の機能、呼吸の生理、尿の生成と排泄、体温とその調整について学習する。その中でも特に理学療法士に必要なかかわりの深い内容、国家試験の頻出問題を解説する。到達目標は人体での生理的な機能の重要性を理解し、本講義範囲の国家試験問題を読解する経験を得るところまでとする。		
授業計画 Course Content	１　循環系の機能　心臓の構造と基本的性質　自動性・興奮性・伝導性・収縮性 ２　循環系の機能　心電図と不整脈のメカニズム　心臓ポンプ機能 ３　循環系の機能　血管系とリンパ系官、循環調整機構 ４　循環系の機能　循環調節機構と局所循環 ５　呼吸の生理　呼吸の仕組み、構造・構成・喚起、ガス交換 ６　呼吸の生理　血液中の酸素運搬、二酸化炭素の運搬、一酸化炭素中毒 ７　呼吸の生理　呼吸・肺換気量の調整、異常、人工呼吸 ８　尿の生成と排泄　腎の機能的構造、糸球体ろ過 ９　尿の生成と排泄　腎血漿流量、クリアランス　尿細管による再吸収 １０　尿の生成と排泄　尿細管における分泌、尿の成分と排尿 １１　体液とその調節　体液の区分と水バランス、体液のイオン組成 １２　体液とその調節　体液の恒常性を維持するしくみ １３　体温とその調整　体温、熱生成、熱放散 １４　体温とその調整　行動性体温調整、体温調整機構 １５　体温とその調整　高体温と低体温		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	シンプル生理学　改訂第８版		
備 考 Other Comments	適宜、配布資料により講義を進める		

科目名 Course title	**人間発達学Ⅰ（運動）**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	松本 茂樹	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	（運動発達） ①作業療法を実施するうえで、正常発達知識が必要であることを知る。 ②乳幼児が、座位・立位を獲得するまでの過程を知る。 ③生後 10 ヶ月までの粗大運動発達が、視覚・聴覚・体性感覚・上肢機能、 認知・実務経験発達の基盤となり、関連しながら発達することを知る。 ④発達学的な運動分析を知る。 ⑤発達領域の作業療法を知る。		
授業計画 Course Content （予定）	１　オリエンテーション ２　新生児 ３　頭部のコントロール ４　抗重力活動 ５　立ち直り運動 ６　坐位・立位・歩行技能 ７　視覚技能 ８　上肢技能		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）レポート		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			

科目名 Course title	**人間発達学Ⅱ（心理）**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	三枝　好恵	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	（発達心理） 子どもから成人、老人への生涯発達。生まれたばかりで他者の世話なしには生きていけなかった赤ん坊も、やがては自分の周りの世界を発見し、言葉を発し、歩くようになっていきます。これまで自分が成長してきた過程を振り返り、認知や情緒、対人関係の発達を学んでいきます。基礎的な発達心理学の概念を習得することを目標とします。		
授業計画 Course Content （予定）	１　発達とは―発達心理学の基礎 ２　乳幼児期の発達 ３　言葉の発達① ４　言葉の発達② ５　心の理論 ６　児童期のこころ ７　青年心理学 ８　老年心理学―認知症の理解		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）発達心理　　テスト、出席率、授業内での小テスト		
教科書 Textbooks	Cross basic リハビリテーションテキスト　人間発達学　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	**精神医学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	嶋 健作、髙橋 隼、正木 慶大	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives （予定）	授業目的精神医学の基礎的知識を習得し、精神医学という身近な疾患を理解する第一歩とする。 到達目標 １．精神医学の意義と基本的理念を理解し、説明できる。 ２．基本的な精神症状の概念を理解し、用語を正しく使用できる。 ３．精神障害を生物・心理・社会的な観点から多面的に捉えることができる。 ４．精神疾患の分類体系を理解し、その概要を説明できる。 ５．代表的な精神疾患の特徴を理解し、その概要を説明できる。 ６．精神科的治療の種類と方法を理解し、その概要を説明できる″ 授業概要本講義では精神医学を総論的に学ぶ。医学・医療における精神医学の意義と役割り、基本的な理念、精神医療の歴史を概観したのち、多様な精神症状の概念的知識と評価・検査法を体系的に学ぶとともに、身体的基盤を有する精神障害から環境や心理的側面の関与が大きい精神障害に至るまで精神障害の成因論と、薬物・身体療法および精神療法に関する基本的知識を体系的に習得する。現在臨床に従事する精神科医師が自身の経験を交えて講義する。		
授業計画 Course Content （予定）	１　オリエンテーション、精神医学の歴史など ２　中枢神経の解剖と生理 ３　神経徴候、せん妄 ４　精神科に関する検査など ５　統合失調症総論 ６　統合失調症各論 ７　気分障害総論 ８　気分障害各論 ９　器質性精神障害総論 １０　器質性精神障害各論 １１　神経症、生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 １２　人格障害 １３　知的障害、発達障害 １４　精神作用物質、てんかん １５　復習とまとめ		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験 80～85 点、小テスト 5 点×３～４回（15～20 点）		
教科書 Textbooks	医学書院　精神医学 第 4 版増補版（標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野）		
備 考 Other Comments	講義予定については進行状況などによって適時変更があります。 準備学習:上記に該当する部分をテキストで読んでおくこと。 試験やレポートに対するフィードバック方法として資料、テキストを復習すること 小テストで要点を理解し、本試験に挑むこと。″		
実務経験内容			

科目名 Course title	**病理学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森　拓也	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	病理学とは、病気の原因・経過および結果を追求し、病気における形態と機能の変化を明らかにすることによって、病気の本態を究明する学問である。 本講義においては、始めに病理学の位置付け、役割、その重要性を説明した後、病気の原因（病因論）について講述、テキストの総論・各論各項目に沿って授業を進める。		
授業計画 Course Content	１　病理学とは何か？（病因論）病理学とは何か、病理学の役割と内容、病気の原因（病因論）、生命の防御機構、細胞傷害と細胞増殖、細胞組織の修復と再生：細胞死（壊死とアポトーシス）、変性、再生、創傷治癒、骨折治癒、異物処理 ２　炎症：炎症の徴候、急性炎症、分類、慢性炎症、特殊性炎、感染症 ３　免疫機構：液性・細胞性免疫、免疫担当細胞、抗原と抗体、アレルギー、自己免疫疾患 ４　循環障害：充血、うっ血、虚血、血栓症、出血、塞栓症、梗塞、ショック、浮腫、脱水症 ５　循環器：先天性心疾患、虚血性心疾患、心内膜炎、弁膜症、心筋症、心肥大と心不全、血管の病気 ６　腫瘍：特徴、組織分類、転移、良性・悪性の鑑別、機能性腫瘍、腫瘍マーカー、発生要因、腫瘍の宿主との関係、疫学 ７　呼吸器：上気道（鼻、咽頭）下気道（気管、気管支、肺）の病気、COPD、肺炎、肺がん ８　代謝異常：石灰沈着、細胞内外物質沈着、黄疸、蛋白質代謝異常、脂質代謝異常、糖質代謝異常 ９　消化器：口腔、唾液腺、食道の病気、胃・腸の病気、肝臓、膵臓の病気 １０　遺伝と遺伝病：先天異常（奇形）、遺伝要因と環境要因、先天性代謝異常、遺伝子診断 １１　造血系：赤血球・白血球の異常、血小板の異常、リンパ節の病気、脾臓、胸腺の病気 １２　泌尿器・生殖器：腎臓・膀胱の病気、女性生殖器（子宮頸部・体部、卵巣）、乳腺の病気、繊毛性疾患、男性生殖器（精巣、前立腺）の病気 １３　中枢神経系・末梢神経系：脳血管障害、感染症、脱髄疾患、変性疾患、脳腫瘍 １４　運動器：骨・軟骨の病気、骨の炎症及び腫瘍病変、関節・筋肉の病気 １５　病理学総括（復習・国家試験対策）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験　＋　提出物		
教科書 Textbooks	「カラーで学べる病理学　第５版」ヌーヴェルヒロカワ		
備 考 Other Comments	すべての講義で１０分程度の小テスト実施。		

科目名 Course title	**臨床心理学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高橋　京子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	臨床心理学について概説するとともに、臨床心理学的な方法や、理解について学ぶことをねらいとする。		
授業計画 Course Content （予定）	（１５回で行う） １　臨床心理学について ２　パーソナリティ ３　アセスメント ４　発達と心理的問題 ５　心理的介入 ６　臨床心理学の応用 ７　国家試験対策		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験・レポート・授業中の態度など		
教科書 Textbooks	「心理学・臨床心理学概論　第３版」北樹出版		
備 考 Other Comments			

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	**社会福祉概論**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	後藤　登美子	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	社会福祉は日常生活に深くかかわるものです。この授業では第三者的に社会福祉の学習に取り組むのではなく自身の生活にひきつけて考えていきたい。社会福祉サービスが一人ひとりの行き方をできるだけ満足のいく形で実現できるよう支援するものであると認識してもらいたいです。 尚、授業は講義だけでなく、ビデオ等を通しても行ないます。		
授業計画 Course Content	１　現代社会における福祉制度と福祉政策 わが国における福祉制度の概念と理念 福祉政策の概念と理念について 福祉制度と福祉政策の関係とは ２　福祉制度の発達過程 日本における福祉の始まり 近代社会と福祉 現在社会と福祉 ３　わが国の社会保障の概要 年金保険制度と企業年金の仕組み 医療保険制度 労働保険制度 介護保険制度 ４　低所得者に対する支援と生活保護制度 公的扶助の概念 生活保護法について ５　自立支援プログラムと生活福祉資金貸付制度について 自立支援プログラムの意義と実際 低所得者対策 ６　児童の福祉（子ども家庭福祉） 児童虐待問題について ひとり親家庭への支援・施策について DV 問題について ７　高齢者の福祉 介護保険制度について ８　利用者本位における契約制度について 成年後見制度 日常生活自立支援事業 福祉サービス利用者保護のためのシステム		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）試験・平常点（レポート等）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	リハビリテーションⅠ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	勝村　智加・梅田　達成	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】　講義では臨床実習概要、感染対策、見学発表、施設の概要や療法士の役割、リハビリテーションの概論について学習する。早期見学実習を通じてリハビリテーション職種である療法士の役割を学習し動機を促進する。また障害者体験を通じ日常生活に機能障害や環境が及ぼす影響を学習する。 【到達目標】 ・リハビリテーションの各分野の役割と目的を説明できる。 ・各施設の概要と各施設での療法士の役割について説明できる。 ・自己の目指す目標を発表できる。 ・スタンダードプリコーションについて説明できる。 ・障害が日常生活に及ぼす影響について説明できる。		
授業計画 Course Content	１　講義概要　説明 ２　リハビリテーションについて① ３　リハビリテーションについて② ４　感染対策 ５　施設見学オリエンテーション ６　リハビリテーション施設見学 ７　リハビリテーション施設見学 ８　リハビリテーション施設見学 ９　リハビリテーション施設見学 １０　リハビリテーション施設見学 １１　リハビリテーション施設見学 １２　リハビリテーション施設見学 １３　リハビリテーション施設見学 １４　リハビリテーション施設見学 １５　リハビリテーション施設見学 １６　リハビリテーション施設見学 １７　リハビリテーション施設見学 １８　発表準備・障害体験オリエンテーション １９　発表準備・障害体験オリエンテーション ２０　障害体験 ２１　障害体験 ２２　まとめ発表会 ２３　まとめ発表会		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	体験学習レポート 発表会内容		
教科書 Textbooks	別途資料を配布する		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	勝村智加：作業療法士として臨床経験７年及び専任教員７年の経験を有する。 梅田達成：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	リハビリテーションⅡ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	大江 俊	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	多職種連携が必須となっている医療に基づき、作業療法の基礎となる「作業」や「活動」、「作業療法・作業療法士とは」という意味を考え、歴史をたどり、法規などを知ることにより全体像を学ぶ。また、作業療法士にとって必要な知識・適正・態度などについて考え、理学療法と作業療法の共通点、相違点を理解し、各々の専門性を理解する機会とする。 【到達目標】 作業療法の歴史、意義、目的、対象、領域について他者に説明できる。 作業療法に関わる法律について他者に説明できる。 作業療法士として適切な資質、思考について理解し、医療人としての素養、倫理観を養う。		
授業計画 Course Content	１　「作業」及び「作業療法」の定義 ２　世界における作業療法の歴史 ３　日本における作業療法の歴史 ４　作業療法の対象となる領域 ５　医療倫理と作業療法士に求められる資質・適正・態度 ６　作業療法における理論・モデル（MOHO、CMOP） ７　作業療法の実際（身体障害、精神障害） ８　作業療法の実際（発達障害、老年障害） ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（30%） 定期試験（70%）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	適宜資料を配布予定		
実務経験内容	作業療法士として臨床経験８年及び専任教員１年の経験を有する。		

科目名 Course title	リハビリテーションⅢ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	ー
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】リハビリテーション医療にかかわる職種の役割について理解し、どのように他職種と連携するのかを学習する。実際に理学療法士・作業療法士・看護師での多職種連携の演習を行う。 （内容はこの通りであるが概要からは削除：理学療法士のスポーツ分野での多職種連携、作業療法士の精神分野での多職種連携についても学習する。） 【到達目標】 ・リハビリテーションに関わる職種とその役割について説明できる。 ・多職種連携の必要性について説明できる。 ・症例を通じて多職種連携を経験し、対象者の支援について発表できる。		
授業計画 Course Content	（理学療法士） １　多職種連携　理学療法　総論 ２　スポーツ理学療法 （作業療法士） ３　多職種連携　作業療法　総論 ４　精神科作業療法 （看護師） ５　多職種連携　看護　総論 （言語聴覚士） ６　嚥下障害総論・嚥下障害の実際 ７　言語聴覚総論・失語症と構音障害 （リハビリテーション関連職種） ８　多職種連携　医療ソーシャルワーカー　総論 ９　多職種連携　ケアマネージャー　総論 １０　多職種連携　栄養士　総論 １１　多職種連携　心理士　総論 （3 科多職種連携） １２　多職種連携総論 １３　多職種連携　症例課題　グループワーク １４　多職種連携　症例課題　グループワーク １５　多職種連携　発表		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験と 3 科多職種連携課題（提出・発表）の合算で評価		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容			

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	**理学療法概論**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田　勝文	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	・理学療法士に関する歴史・教育・法律・職域・対象等を学び職業としての理学療法士像を明確にする。 ・リハビリテーションの概念の理解を深める。 ・リハビリテーションチームの理解を深める。		
授業計画 Course Content	1.理学療法の定義、リハビリテーションの定義、法律、カリキュラム 2.保健制度、診療報酬 3.歴史、倫理、職能団体 4.理学療法の実際 5.急性期の理学療法 6.回復期の理学療法 7.生活期の理学療法 8.まとめ、研究、行政、他		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験　平常点		
教科書 Textbooks	ＰＴＯＴビジュアルテキスト　理学療法概論　羊土社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。		

科目名 Course title	**障害学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田　勝文	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	【概要】 障害の概要や器官別に生じる障害、および症候学について学習する。 【到達目標】 ・生活機能分類・障害分類について説明・分類ができる。 ・各器官から生じる障害を説明できる。 ・リハビリテーションに関わる主な症候について説明できる。		
授業計画 Course Content	1.障害について、器官別障害について、 2.症候学　炎症・疼痛、 3.可動域制限.拘縮、 4.筋力低下、筋萎縮 5.麻痺、高次機能障害、 6.運動耐用能の低下等、－ 7.器官別障害学　運動器 8.器官別障害学　脳疾患		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし（資料配布）		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。		

科目名 Course title	**動作分析学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	藤善　将	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives （予定）	本講座では、作業療法についての知見を振り返り深めたうえで、作業療法士が ADL の向上・自立に向けて介入していく視点について学ぶ。作業という人の営みを様々な角度から分析する臨床的視点をもち、言語化できることを目標とする。		
授業計画 Course Content （予定）	１　作業療法についての振り返り ２　作業療法の理解に向けたグループワーク ３　活動分析（前開きシャツ・靴下など） ４　分析結果の発表・ディスカッション ５　巧緻動作と ADL の関係性についてのグループワーク ６　分析結果の発表・ディスカッション ７　食べる行為についての作業分析（グループワーク） ８　分析結果の発表・ディスカッション		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	作業療法士として教員６年及び臨床２７年の経験を有する。		

＝理学療法評価学＝

科目名 Course title	**評価学　総論**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田　勝文	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 評価学各論の前段階として療法士が行う評価の概要とその過程、および評価の意義や目的を（変更：について）学習する。 【到達目標】 ・療法士が行う評価の過程を説明できる。 ・療法士が行う情報収集について説明できる。 ・療法士が行う検査・測定の種類について説明できる。 ・療法士が行う統合と解釈について説明できる。 ・療法士が行う予後予測や目標設定について説明できる。 ・療法士が行う再評価と効果判定について説明できる。		
授業計画 Course Content	1 評価の概要、目的、手順 2 理学療法評価の評価手順 3 結果の記載方法、SOAP 法、ケースレポートについて 4 帰納的問題解決法 5 演繹的問題解決法 6 予後予測・目標設定 7.8 症例を通じて、評価（情報収集・検査測定・結果の統合と解釈・問題点の抽出・予後予測・目標設定・治療計画の立案・再評価について）		
成績評価の方法・ 基準・評価	筆記試験（終講試験）・平常点		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編　（第 2 版補訂）金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。		

科目名 Course title	**評価学各論Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松　眞吾、宝田　愛	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 療法士として患者や対象者の身体に触れるための準備として「骨や血管の触診技術」を（変更：について）学習する。 また「バイタル測定」や「形態測定」の意義や目的、および測定技術を学習する。 【到達目標】 ・リハビリテーションに関わる主な身体の四肢・体幹の骨・血管について触診できる。 ・バイタル測定については、体温・脈拍・血圧・呼吸数・動脈血酸素飽和度の測定意義や目的、および測定方法を説明できる。 ・バイタル測定については、体温・脈拍・血圧・呼吸数・動脈血酸素飽和度の測定ができる。 ・形態測定については、体格（体重、身長、BMI)、四肢長、四肢周径の測定意義や目的、および測定方法を説明できる。 ・形態測定については、体格（体重、身長、BMI)、四肢長、四肢周径の測定ができる。		
授業計画 Course Content	１～８　　触診（骨・動脈）について ９～１１　バイタル測定について １２～１５　形態測定について ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問）の成績を加味して判定する.		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編　（第 2 版補訂）金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。 宝田教員：作業療法士として臨床経験６年及び専任教員５年の経験を有する。		

科目名 Course title	**評価学各論Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	宮脇　孝治、大江　俊	期間及び単位 Term/Credits	１年次　前期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 　四肢体幹の「可動域測定」について意義や目的、および測定技術を学習する。 【到達目標】 ・四肢・体幹の可動域測定の意義や目的、測定方法ついて説明できる。 ・関節可動域の標準角度や制限する因子について説明できる。 ・四肢・体幹の可動域測定ができる。		
授業計画 Course Content	１　　ＲＯＭ総論（ROM 定義・関節の構成要素・基礎知識） ２～６　　ＲＯＭ上肢（肩関節、肘関節、前腕、手関節、手指） ７～１３　ＲＯＭ下肢（股関節、膝関節、足関節、足趾） １４～１５　頸部、体幹・別法・まとめ ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問）の成績を加味して判定する.		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編　（第 2 版補訂）金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	宮脇教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員５年の経験を有する。 大江教員：作業療法士として臨床経験８年及び専任教員１年の経験を有する。		

科目名 Course title	**評価学各論Ⅲ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森谷 伸樹、高山 弘幹、宝田 愛	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	６０時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 四肢体幹の「筋力測定」について意義や目的、および測定技術を学習する。 【到達目標】 筋力測定の意義や目的、方法について説明できる。 徒手筋力測定の実施ができる。またその結果を判定できる。		
授業計画 Course Content	１　総論　筋力とは　MMT の原理、原則、注意点 肩甲骨外転と上方回旋(前鋸筋)、肩甲骨挙上(僧帽筋)、 ２　肩甲骨内転(僧帽筋中部線維)、肩甲骨下制と内転(僧帽筋下部線維) 肩甲骨内転と下方回旋(菱形筋群) ３　肩関節屈曲(前方挙上)(三角筋前部、棘上筋、烏口腕筋)、肩関節伸展(後方挙上)(三角筋後部) ４　肩関節外転(側方挙上)(三角筋中部および棘上筋)、肩関節水平外転(三角筋後部) ５　肩関節水平内転(大胸筋)、肩関節外旋(棘下筋、小円筋) ６　肩関節内旋(肩甲下筋)、肘関節屈曲(上腕二頭筋、上腕筋、および腕橈骨筋) 肘関節伸展(上腕三頭筋) ７　前腕回外(回外筋、上腕二頭筋)、前腕回内(回外筋、方形回内筋) ８　手関節伸展(長短橈側手根伸筋、尺側手伸筋)　手関節屈曲(橈側手根屈筋、尺側手根屈筋)、 ９　PIP 関節および DIP 関節(浅指屈筋、深指屈筋)の屈曲　複合テスト １０　PIP 関節および DIP 関節、MP 関節伸展(指伸筋、示指伸筋、小指伸筋) １１　指 MP 関節屈曲(虫様筋と骨間筋) 、 １２　指外転(背側骨間筋)、内転(掌側骨間筋 １３　母指 MP、IP 関節屈曲(短母指屈筋、長母指屈筋)、母指 MP.IP 関節伸展(短母指伸筋、長母指伸筋) １４　母指外転(長母指外転筋、短母指外転筋)、母指内転(母指内転筋)、 １５　対立運動(母指対立筋、少子対立筋) １６　股関節屈曲・伸展 １７　股関節伸展別法 １８　股関節外転、股関節内転 １９　股関節外旋、股関節内旋 ２０　膝関節屈曲 (総合)、内側・外側 ２１　膝関節伸展 ２２　足関節底屈、足関節背屈内がえし ２３　足の内がえし、足の底屈を伴う外がえし ２４　母趾と足ゆびの MP 関節屈曲、DIP、PIP 関節屈曲、 ２５　母趾と足ゆびの MP 関節、IP 関節伸展 ２６　頸部屈曲、伸展、回旋 ２７　頭部屈曲、伸展、体幹屈曲 ２８　体幹回旋、体幹伸展 ２９　骨盤挙上、体幹側面 ３０　安静な吸気 脳神経支配筋のテスト 徒手筋力測定の別法(ハンドヘルドダイナモメーター、握力テスト等機器を使用するテスト法)		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問）の成績を加味して判定する.		
教科書 Textbooks	新・徒手筋力検査法　原著第 10 版　協同医書出版社		
備 考	なし		
実務経験内容	宝田教員：作業療法士として臨床経験６年及び専任教員５年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	**評価学各論Ⅳ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中野　里佳、森谷 伸樹	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／1 単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 感覚、疼痛、身体で生じる反射、筋緊張などの各種測定について、意義や目的および測定方法を（変更：について）学習する。 【到達目標】 感覚検査の意義や目的について説明できる。 感覚検査を実施できる。またその結果を判定できる。 疼痛検査の意義や目的について説明できる。 疼痛検査を実施できる。またその結果を判定できる。 深部腱反射・表在反射・病的反射・姿勢反射の意義や目的について説明できる。 深部腱反射・表在反射・病的反射・姿勢反射を実施できる。またその結果を判定できる。 筋緊張の検査について意義や目的について説明できる。 筋緊張の検査を実施できる。またその結果を判定できる。		
授業計画 Course Content	全１５コマの内訳 １～３：筋緊張の検査について理解し実施ができるようになる。 ４～８：反射検査について理解し実施ができるようになる。 ９～１３：感覚検査について理解し実施ができるようになる。 １４～１５：疼痛検査について理解し実施ができるようになる。 ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価	小テスト・実技試験（口頭試問）　　の成績を加味して判定する.		
教科書 Textbooks	PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版　羊土社 PT・OT のための臨床技能と OSCE コミュニケーションと介助・検査測定編　（第 2 版補訂）金原出版		
備 考	なし		
実務経験内容	中野教員：作業療法士として臨床経験２１年及び専任教員４年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		

＝理学療法治療学＝

科目名 Course title	**動物介在療法学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	川嶋　舟	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives （予定）	犬や猫、馬やイルカなど、動物を介することで、人が癒されたり、人の機能の改善を図ったりすることが知られており、動物を介在して行うため動物介在療法と言われている。動物介在療法に関わる人材の多くが、犬や馬、イルカなどの動物の専門家によるアプローチであり、人のリハビリテーションの専門家である理学療法士、作業療法士が動物介在療法を実践する場はまだ少ない。この講義では、動物介在療法の中でも、特に人に近しい存在と言われる馬を介した馬介在療法について学び、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を実践することのメリット、その実践に必要な知識を学ぶ。		
授業計画 Course Content （予定）	１　動物介在療法とは、馬介在療法とは 日本や世界で行われている動物介在療法を知る。そしてその中で特に馬を扱ってリハビリテーションを行う馬会介在療法とは何かを学ぶ。 ２　馬という動物について 馬の生理、運動、解剖学的な知識、馬の生態やについて学ぶ。 ３　馬と人の関係について 人と馬が共に共存していく歴史を学び、人と馬の関係性を歴史的に考えていく。」 ４　人について 単に人の解剖、運動、生理学的視点だけでなく、馬に関わっているときの人の身体機能や精神機能について学ぶ ５　馬介在療法の効果について（身体機能面） 馬介在療法の中で、乗馬を利用し体幹機能の向上を目的としたヒポセラピーなど、身体機能への効果について学ぶ。 ６　馬介在療法の効果について（精神機能面） 馬は人の幼児程度の知能と言われ、それが人にとってノンバーバルコミュニケーションを利用した精神機能面への効果が期待されると言われており、どのような効果が期待できるかを学ぶ。 ７　馬介在療法の実践について 日本で理学療法士、作業療法士が実践しているホースセラピーはどのようなものがあるのかを学ぶ。 ８　馬介在療法の運用について 馬介在療法を実施適応し実践してくための、運用方法や費用等について学び、理学療法士、作業療法士が実際の現場でどのように馬介在療法を実施するのかを学ぶ。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（予定）提出物および定期試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	必要に応じて、実際に馬との関わる機会を提供する。		

科目名 Course title	**日常生活活動学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	木屋 和奈、宮脇　孝治	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義・実技	実務経験 Experience	理学療法士・作業療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】 日常生活活動について概要・評価、および動作介助の技術について学習する。 【到達目標】 ・日常生活活動の概要について説明できる。 ・日常生活活動の評価が出来る。 ・日常生活活動にかかわる基本的動作の介助が出来る。		
授業計画 Course Content	１～８　　座学 ・日常生活活動の概念と療法士の役割 ・日常生活活動別の問題点と援助の視点 ・日常生活活動の障害 ・評価の方法 ９～１５　実技 ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実技試験、筆記試験の合算		
教科書 Textbooks	「ADL とその周辺　評価・指導・介護の実際　第３版」　医学書院　　又は 「PT・OT ビジュアルテキスト　ADL　第２版」　　羊土社 ※変更の可能性あり		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	木屋教員：作業療法士として臨床経験１５年の経験及び専任教員１０年の経験を有する。 宮脇教員：作業療法士として臨床経験８年の経験及び専任教員５年の経験を有する。		

科目名 Course title	**物理療法学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松　眞吾	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	【概要】物理的なエネルギ―を生体に活用する物理療法について、エネルギーの特性や適応・禁忌事項、および実施方法について学習する。 【到達目標】 温熱療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。 温熱療法について、実施ができる。 寒冷療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。 寒冷療法について、実施ができる。 超音波療法について、エネルギーの特性、適応、禁忌、実施方法について説明できる。 超音波療法について、実施ができる。		
授業計画 Course Content	１　物理療法の目的、理学療法のなかでの位置づけ、物理療法各機器の概説 ２　物理療法の対象と病理(炎症と創傷治癒)、物理療法の対象と病理(疼痛) ３　物理療法の対象と病理(筋トーヌス異常)、物理療法の対象と病理(運動制限) ４　温熱が全身、局所に与える影響① ５　温熱が全身、局所に与える影響② ６　ホットパック・パラフィン療法 ７　ホットパック・パラフィンの演習 ８　超音波療法① ９　超音波療法② １０　極超短波療法 １１　極超短波療法・超音波療法の演習 １２　寒冷療法　生理学的作用について １３　寒冷療法の目的・適応・禁忌について、RICE について １４　アイスマッサージ、アイスパック、コールドパック、コールドスプレー、 持続的冷却装置の使用方法、注意点などについて １５　アイスパック　コールドパックの演習 ※詳細は初講の際に説明		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	毎回の講義での提出物を評価：50% 筆記試験：50% 合計：100%として評価する		
教科書 Textbooks	「物理療法テキスト　改訂第３版」　南江堂		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	**地域臨床見学実習**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	各実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	１年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	到達目標 （1）職業人としての適正を理解することができる。 （2）対象者との適切な対人関係やスタッフとの適切な対人関係を構築できる。 （3）地域におけるリハビリテーションスタッフの業務と役割を理解することができる。 （4）患者（対象者）の持つ障害を ICF や ICIDH を用いて分類し、それぞれの持つ問題の多様性を知ることが出来る。 (5)記録が出来る。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習成果と実習課題を総合的に評価する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	実習課題：実習日誌・感想文		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員５年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		

講 義 概 要

2025 年度　理学療法学科

2 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校

理学療法学科

《専門基礎分野》＝人体の構造と機能及び心身の発達＝

科目名 Course title	**人間発達学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	荒川　鉄也	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	胎児期～老年期までの発達（変化）を考えていく。		
授業計画 Course Content	１　発達概念 ２　発達理論 ３　発達検査 ４　姿勢反射・反応 ５　運動発達（０～３ヶ月） ６　運動発達（４～６ヶ月） ７　運動発達（７～９ヶ月） ８　運動発達（１０～１２ヶ月） ９　運動発達（１３ヶ月以降） １０　姿勢反射・反応と６歳までの発達 １１　上肢の発達 １２　ＡＤＬの発達（遊び・食事・排泄・更衣） １３　感覚・知覚・認知・社会性の発達 １４　学童期・青年期・成人期・老年期の発達 １５　補足講義・まとめ・復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「イラストでわかる人間発達学」　医歯薬出版		
備 考 Other Comments	なし		

＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	**内科学Ⅰ**	学 科 Department	共通
担当者名 Instructor	栗岡　英行	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。 内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々の疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。 特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。		
授業計画 Course Content	１　内科学総論；内科学とは、主な疾患 ２　診療の基本；カルテと問診 ３　診察法（１）；バイタルサインの見方・考え方 ４　診察法（２）；身体所見の取り方と疾患 ５　内科的検査法、主な症候、治療法の進歩 ６　循環器疾患（１）；循環器解剖生理の復習、高血圧と低血圧、ショック ７　循環器疾患（２）；動脈硬化と虚血性心疾患（①） ８　循環器疾患（３）；虚血性心疾患（②）、心不全 ９　循環器疾患（４）；不整脈 １０　循環器疾患（５）；様々な心疾患（弁膜症、心筋疾患、先天性心疾患など） １１　循環器疾患（６）；動脈・静脈疾患、リンパ系疾患 １２　呼吸器疾患（１）；呼吸器解剖生理の復習、呼吸器検査と症候 １３　呼吸器疾患（２）；病原微生物と呼吸器感染症 １４　呼吸器疾患（３）；閉塞性肺疾患と拘束性肺疾患 １５　呼吸器疾患（４）；その他の肺疾患（腫瘍、胸膜疾患など）と呼吸不全		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学　第３版」　南山堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験３６年の経験を有する。		

科目名 Course title	**内科学Ⅱ**	学 科 Department	共通
担当者名 Instructor	栗岡　英行	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	リハビリテーションが必要とされる患者さんでは、脳神経や筋骨格系の疾病のみならず種々の内臓疾患に罹患していることが多い。より有効なリハビリテーションを実施するためには、それら内臓疾患についての理解が不可欠である。 内科学では、これまでに履修した解剖学、生理学、病理学の知識をもとに、様々の疾患について病態生理から症状、診断法（様々な検査を含む）、治療法、予後などを学ぶ。 特に臨床現場で頻回に遭遇する疾患について理解を深めるとともに、過去の国家試験問題にも留意しながら学習をすすめる。さらに医療従事者の一員として必要とされる一般的な医学的知識の習得にもつとめる。		
授業計画 Course Content	１　消化管疾患（１）；消化器解剖生理の復習、口腔～小腸までの疾患 ２　消化管疾患（２）；大腸～肛門までの疾患、消化器腫瘍 ３　肝臓・胆嚢・膵臓疾患（１）；肝臓・胆嚢・膵臓解剖生理の復習、肝炎・肝硬変・肝癌ほか ４　肝臓・胆嚢・膵臓疾患（２）；胆石・胆嚢炎、膵炎、膵癌など ５　代謝性疾患（１）；糖尿病 ６　代謝性疾患（２）；肥満症・メタボリック症候群・脂質異常症・痛風・骨粗鬆症など ７　内分泌疾患　　；内分泌解剖生理の復習、主な内分泌疾患 ８　血液疾患（１）；血液解剖生理の復習、貧血 ９　血液疾患（２）；血液の腫瘍、造血幹細胞移植、出血性疾患 １０　アレルギー・膠原病疾患（１）；アレルギー総説、主なアレルギー疾患 １１　アレルギー・膠原病疾患（２）；自己免疫疾患総論、主な膠原病疾患 １２　腎・泌尿器科疾患（１）；腎・泌尿器の解剖生理の復習、腎不全と透析・移植療法 １３　腎・泌尿器科疾患（２）；主な腎疾患・泌尿器科的疾患 １４　感染症（１）；感染症総論（感染経路、感染予防対対策、治療法など） １５　感染症（２）；感染症各論（代表的な感染症）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト（授業時間内）と期末試験による		
教科書 Textbooks	「なるほどなっとく！内科学　第３版」　南山堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験３６年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床神経学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森下　真次	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	神経疾患とは何かを知る。　神経解剖学・神経生理学を通し、神経症状を理解する。 神経疾患特有の症候・検査を知る。		
授業計画 Course Content	１　神経系の構造と機能① ２　神経系の構造と機能② ３　運動とその障害 ４　感覚とその障害 ５　自律神経系 ６　脳神経系 ７　意識障害 ８　頭痛 ９　てんかん １０　神経診断法 １１　末梢神経疾患 １２　脊髄疾患 １３　脳髄疾患 １４　高次脳機能障害① １５　高次脳機能障害②		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験　選択式		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦　脳・神経 第２版」　メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験３９年の経験を有する。		

科目名 Course title	臨床神経学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森下　真次	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	各神経疾患につき病態を理解し、治療法を知る。		
授業計画 Course Content	１　抹消神経疾患／脱髄性疾患 ２　神経変性疾患１ ３　神経変性疾患２ ４　筋疾患／代謝性神経障害 ５　感染性疾患 ６　認知症 ７　頭痛、てんかん、復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	テストによる評価		
教科書 Textbooks	「病気がみえる⑦　脳・神経」　メディックメディア		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験３９年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学Ⅰ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	寺西　朋裕	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	整形外科の基礎を修得の上、臨床応用への対応を学ぶ。続いて日常診療で遭遇する運動器疾患について学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　整形外科的基礎知識 ２　整形外科治療法 ３　整形外科疾患総論 ４　炎症性疾患 ５　代謝・退行性疾患 ６　先天性疾患① ７　先天性疾患② ８　循環障害と壊死疾患① ９　循環障害と壊死疾患② １０　骨・軟部腫瘍① １１　骨・軟部腫瘍② １２　神経・筋疾患① １３　神経・筋疾患② １４　脊椎の疾患① １５　脊椎の疾患②		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準整形外科学　第１５版」　医学書院 「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　整形外科学　第５版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験３１年の経験を有する。		

科目名 Course title	整形外科学Ⅱ	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	寺西　朋裕	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊椎疾患、外傷性疾患について学び、臨床能力のさらなる向上を図る。		
授業計画 Course Content	１　骨折① ２　骨折② ３　脊髄損傷① ４　脊髄損傷② ５　脊髄損傷問題 ６　捻挫・脱臼 ７　神経障害① ８　神経障害② ９　末梢神経損傷 １０　腱・靭帯損傷 １１　スポーツ障害① １２　スポーツ障害② １３　タナ障害 １４　熱傷 １５　切断・離断		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	講義終了後、試験を行って評価する。		
教科書 Textbooks	「標準整形外科学　第１５版」　医学書院 「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　整形外科学　第５版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験３１年の経験を有する。		

科目名 Course title	**外科・救急医学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中江　晟	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法士として必要な外科学の知識を取得する。		
授業計画 Course Content	１　外科の歴史 ２　外科学総論 ３　外科学総論、損傷、創傷 ４　外科学総論、熱傷 ５　ショック・感染症 ６　救急 ７　手術供覧 ８　器具供覧		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	考査による		
教科書 Textbooks	「ＳＴＥＰ　外科　①外科総論・脳神経外科　第２版」海馬書房		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	医師として臨床経験４７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**精神医学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	勝村　智加	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	現代の主要な精神疾患について医学的に理解する。 疾患に限らず精神の様々な問題について考える。		
授業計画 Course Content	１　講師の自己紹介　授業の概要 症例　アルツハイマー型認知症 ２　症例　脳血管性認知症 ニューロンとシナプス 心とは ３　症例　総合失調症 統合失調症ノート ４　症例　統合失調症残遺状態 統合失調症治療　リハビリテーション ５　症例　うつ病　うつ病ノート ６　症例　アルコール依存　アルコール依存ノート ７　症例　パニック障害 ８　症例　PTSD		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	標準理学療法学・作業療法学　精神医学　第４版増補版　医学書院		
備 考 Other Comments	作業療法士として臨床経験７年の経験及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**小児科学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	西野　正人	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	医師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	基本的にはテキストを中心に、小児の特徴・疾患について講義します。医師・看護師のカルテ内容を把握して、治療を協力して行える力をつけるようにスライド等資料を活用しながら、短時間の講義時間内でも、小児の特殊性を理解してもらいます。		
授業計画 Course Content	１　小児の成長と発育に関して様々な症例を紹介し、合わせて小児科学概論、栄養、保健（健診等）についても随時触れてゆきたい。代謝疾患、内分泌疾患についても触れる。 ２　感染症の数々の症例（写真を中心とした）を通して小児への感染症、消化器疾患を理解して頂く。 ３　血液疾患を通じて、免疫や膠原病についても触れて理解を深めて頂きたい。 ４　腎疾患を通して腎の生理、免疫、アレルギー、膠原病についても随時触れてゆきたい。 ５　新生児・未熟児疾患、先天異常と遺伝症 ６　神経・筋・骨系疾患 ７　循環器疾患、呼吸器疾患 ８　習癖・睡眠関連疾患・心身医学的疾患・虐待、重症心身障害児		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　小児科学　第６版」医学書院		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**臨床心理学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	小澤　裕子	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	４期の人生プロセスにそって代表的ストレス症状の原因と治療を理解する。自他ともに役立つ内容とする。		
授業計画 Course Content	１　子どものストレス症状①　夜尿 ２　子どものストレス症状②　チック・喘息 ３　思春期のストレス症状①　登校拒否 ４　思春期のストレス症状②　拒食症 ５　中年期のストレス症状　うつ　その① ６　中年期のストレス症状　うつ　その② ７　老年期のストレス症状　認知症、死の心理学 ８　まとめ（国試概説）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	論述式の筆記試験（持込不可）により全体的な理解力と表現力を評価します。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	テキストは使用せず、毎回レジュメを配布します。 講義内容については変更する場合がある。		

＝保健医療福祉とリハビリテーション理念＝

科目名 Course title	**リハビリテーションⅢ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松　真吾	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	平均生存率（平成 29 年）が男性 81 歳女性 87 歳とますます高齢化社会が進む現在の日本のおけるリハビリテーション医療の重要性を理解し、リハビリテーション医療が取り組む高齢者に多い主要な疾患とその障害についての基本的な病態を講義する。その上で個々の疾患からくる機能障害だけでなく、その障害を持って生きてゆく人たちが対面する社会的障害に対する対応もリハビリテーション医学の領域であり障害の有無に関わらず全ての人が平等に生きられる社会にすることがリハビリテーション医療の使命であることを理解できるように講義を行いたい。		
授業計画 Course Content	（１５時間で行う） １　リハビリテーション医学・医療の基本概念 ２　リハビリテーション医学とチーム医療 ３　リハビリテーション医学における障害受容の心理 ４　高齢者のリハビリテーション ロコモチーブシンドローム、フレイル、転倒、骨折、廃用症候群 ５　脳血管障害のリハビリテーション 認知症と高次脳機能障害 ６　神経難病のリハビリテーション（パーキンソン病他）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、筆記試験を総合して評価する。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	限られた講義時間のなかでリハビリテーション医学の基本概念と高齢者の身体機能を含めてより多く発症する病態を中心に講義を行う。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	**臨床運動学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	解剖学，基礎運動学で学習した知識を基に基本的動作について学習を進める. 寝返り・起き上がり・立ち上がり・その他の動作についてメカニズムを理解し，動作観察と分析を行う.		
授業計画 Course Content	１　総論・寝返り ２　寝返り ３　寝返り ４　起き上がり ５　起き上がり ６　起き上がり ７　立ち上がり ８　立ち上がり ９　着座 １０　歩行 １２　歩行 １３　歩行 １４　その他動作 １５　まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「動作分析　臨床活用講座　バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。		

科目名 Course title	**臨床運動学Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	上肢・下肢・体幹における身体構造と機能、および生体力学や運動学などの専門基礎課程で学習した内容をもとに、病態と合わせて病態運動学として理解を深める。		
授業計画 Course Content	１　股関節の解剖と症例検討　① ２　股関節の解剖と症例検討　② ３　股関節の運動学と生活動作への影響 ４　膝関節の解剖と運動学、運動力学 ５　膝関節の運動連鎖と症例検討（評価と動作分析）① ６　膝関節の運動連鎖と症例検討（評価と動作分析）② ７　手関節の運動学と動作分析 ８　脊椎の解剖学と運動学 ９　脊椎の疾患別評価　① １０　脊椎の疾患別評価　② １１　足関節の解剖学と運動学 １２　足関節の機能障害と運動学　① １３　足関節の機能障害と運動学　② １４　肩関節の運動学総論 １５　肩関節の疾患別運動学		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「観察による歩行分析」　医学書院		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容			

科目名 Course title	**動作分析学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	中本　隆幸	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	動作観察・分析について学習する。 動作分析（観察）は、理学療法士において必要不可欠な評価方法であるが、評価尺度が決まっていないため、評価方法の中でも難しい分野である。基礎を再確認し、具体的な症例を提示することにより、理解を深めることがねらいである。		
授業計画 Course Content	１　理学療法・理学療法評価法を再確認する ２　理学療法士における動作分析学の必要性を整理する ３　基礎運動学・臨床運動学における動作分析に関する整理 ４　立位姿勢についての動作観察・動作分析 ５　歩行についての動作観察・動作分析 ６　それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅰ ①寝返り ②起き上がり ７　それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅱ ③座位姿勢 ④床からの立ち上がり ８　それ以外の動作についての動作観察・動作分析Ⅲ ⑤立ち上がり ⑥片脚立位 ⑦その他 ９　正常と臨床動作の観察・分析の整理とまとめ １０　VTR 症例による動作観察・動作分析① １１　VTR 症例による動作観察・動作分析② １２　VTR 症例による動作観察・動作分析③ １３　VTR 症例による動作観察・動作分析④ １４　VTR 症例による動作観察・動作分析⑤ １５　VTR 症例による動作観察・動作分析⑥		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験		
教科書 Textbooks	「動作分析　臨床活用講座　バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践」　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験３５年の経験を有する。		

＝理学療法評価学＝

科目名 Course title	**理学療法評価学Ⅲ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高山　弘幹　、森谷　伸樹	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	７５時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 CourseDescription・ Course　objectives	神経学的検査と評価および整形外科的検査法の理解と実践について学習する。 到達目標は、神経学的検査と評価について理解し、実施できる。 また、整形外科的検査法について理解し、実施できる。		
授業計画 Course Content	１－２７：神経学的検査・バランス検査 ２８－３８：整形外科テスト １　＜神経学的検査総論＞　評価学とは、神経学的検査とは ２　筋緊張、姿勢筋緊張とは、姿勢反射について ３　筋緊張異常から生じる異常動作と異常歩行 ４　筋緊張の評価方法 ５　深部腱反射の検査意義について ６　深部腱反射のメカニズム ７　深部腱反射の検査方法の解説①　（上肢） ８　深部腱反射の検査方法の解説②　（下肢） ９　錐体路と錐体路障害の解説 １０　病的反射の評価意義と検査方法の解説、運動機能検査の解説 １１　ＢＲＳＴ、ＳＩＡＳ １２　運動麻痺と検査 １３　脳神経検査について（概論） １４　脳神経検査の紹介と実践 １５　感覚検査について（概論） １６　神経生理（感覚神経） １７　感覚検査の実践（表在感覚） １８　感覚検査の実践（深部感覚） １９　感覚検査の実践（温痛覚、2 点識別、立体など） ２０　不随運動 ２１　小脳の働きについて ２２　失調の検査方法の解説①　（上肢） ２３　失調の検査方法の解説②　（下肢） ２４　協調性、失調について ２５　バランス評価 ２６　バランス評価 BBS と転倒の評価 ２７　患者を想定した実践：CVA、脊髄損傷、糖尿病、末梢神経障害 ２８　＜整形外科テスト＞　各関節についての代表的な整形外科的検査法について学習 腰部骨盤① ２９　腰部骨盤② ３０　股関節 ３１　足関節 ３２　膝関節① ３３　膝関節② ３４　肩関節① ３５　肩関節② ３６　肘・前腕・手関節 ３７　頸椎 ３８　整形外科テストまとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価	筆記試験と実技試験にて評定する。変更がある場合は各教員の初講て説明する。		
教科書 Textbooks	「ベッドサイドの神経の診かた　改訂１８版」　南山堂 適切な判断を導くための整形外科徒手検査法　メジカルビュー社 「絵で見る脳と神経　しくみと障害のメカニズム　第４版」　医学書院		
備 考			
実務経験内容	森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。		

科目名 Course title	**理学療法評価演習ⅡA**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数教員（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義・演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	理学療法評価プロセスは対象者の社会レベル、能力レベル、機能レベルの問題を抽出し、その問題解決策をプランニングする過程である。問題の抽出、治療プランの立案は解剖学、生理学、運動学等の基礎医学的知識、整形外科学、脳神経外科学、内科学などは臨床医学的知識、さらには理学療法評価学や理学療法治療学的知識を統合しなければ成し遂げることはできない。つまり評価演習は総合教育・実践教育に位置付けられる。また理学療法は人間を対象とするため、知識、技術だけでなくコミュニケーションやマナー、配慮も必要不可欠であり、評価演習ではこれらの対人スキル含め能力向上を図る。下記①-⑤の向上を目標に授業を展開する。 【目標】　臨床現場（実習）を想定したシミュレーションを通じ対人スキルの向上 問題解決能力の向上 実践の中での学習方法の確立　自己教育(育成)力の向上 理学療法評価プロセスの経験 統合と解釈の理解と実践 IDH から ICF への展開		
授業計画 Course Content	１　オリエンテーション・症例提示（THA） ２　検査測定の実践① ３　検査測定の実践② ４　グループディスカッション（対人ｽｷﾙ・リスク管理） ５　実技練習① ６　実技練習② ７　実技練習③ ８　実技試験 ９　実技試験（中間試験） １０　グループディスカッション・グループフィードバック １１　評価プロセス説明・Case2　症例提示（TKA） １２　グループディスカッション・グループフィードバック（疾患・手術から Imp 予測） １３　既往・合併症から Imp 予測、糖尿病に関する症状・治療について １４　社会的背景から能力障害を予測 １５　併存症についてのリスク管理 １６　検査測定方法と計画 １７　実技練習 １８　検査結果の提示　統合と解釈（経過要約・ＨとＤ・リスク管理） １９　個別フィードバック ２０　統合と解釈（ＤとＩの関係性） ２１　個別フィードバック ２２　統合と解釈（Ｉの原因追究） ２３　まとめ　個別フィードバック		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	演習内容（評価表）実技試験の両者で評定する。		
教科書 Textbooks	「リハビリテーション リスク管理ハンドブック　第４版」　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７月分年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員５年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**理学療法評価演習ⅡB**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数教員（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法評価はボトムアップリーズニングとトップダウンリーズニング双方の利点を活かし、はじめて障害の全容を明らかにできる。評価演習ⅡBでは脳血管障害を題材にトップダウンリーズニングによる理学療法評価プロセスを学ぶ構成としている。脳血管障害は多彩な障害像を呈する。多くの場合、関節可動域障害、筋力低下だけでなく、筋緊張異常や感覚障害が動作障害に関与するため、統合と解釈では高い情報処理能力が求められる。また神経系の検査・測定は状況や目的に応じ方法を工夫しなければ意味のある結果を残せない。トップダウンリーズニングによる脳血管障害の評価の難易度は高いが、一連の取り組みにより習得できるものも多いと考える。 　さらに評価演習ⅡB は実際の患者様に協力いただいている。極めて現場に近い環境で実践的な対人スキル、リスク管理能力、技術、学力を高めるとともに、医療者、治療者としてのあり方や倫理観を深めて欲しい。下記①-⑤を到達目標として授業を展開する。 【目標】　①症例との関わりを通した対人スキルの向上 ②症例の生活上の問題、症例の要望に即した評価の実践 ③動作観察、分析能力の向上 ④神経系の理学療法評価技術の向上 ⑤トップダウンリーズニングによる統合と解釈の理解と実践		
授業計画 Course Content	１　症例情報からリスクの確認と管理方法の検討 ２　医療面接の目的と情報収集項目、基本動作能力確認の意義 ３　医療面接の実践　１ ４　医療面接の実践　２ ５　動作観察項目および動作観察条件の検討　１ ６　動作観察項目および動作観察条件の検討　２ ７　リスク管理方法の検討、動作観察の計画・準備 ８　動作観察事前練習 ９　動作観察の実践 １０　動作観察の記録 １１　動作分析　姿勢動作障害の仮説立案１ １２　動作分析　姿勢動作障害の仮説立案２ １３　中枢神経障害に対する評価 １４　検査実施計画１（リスク管理方法を含む）。 １５　検査実施計画２ １６　検査実技練習 １７　検査の実践　１ １８　検査の実践　２ １９　検査の解釈 ２０　統合と解釈　ＨとＤとの関係 ２１　統合と解釈　ＤとＩとの関係 ２２　統合と解釈　Ｉの原因追及 ２３　統合と解釈　予後予測		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験５０点に演習内容（評価表）５０点の合計点。		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	デイリーノート　レポート・レジュメの作成		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７月分年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員５年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		

＝理学療法治療学＝

科目名 Course title	**物理療法学Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松　眞吾	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	物理療法学Ⅱでは水治療法、圧迫療法、電気療法、光線療法、牽引療法について学習する。物理療法学Ⅰと同様にこれらの治療がもたらす効果のメカニズムを生理学的知見交えて学習する。各療法の適応、禁忌についても生理学的背景に基づいて理解を促す。		
授業計画 Course Content	１　水治療法　静水圧　浮力が身体に及ぼす影響 ２　水治療法　水の抵抗　水温と生理的反応、水中運動療法効果と禁忌 ３　渦流浴　各温度と効果　禁忌、上肢用　下肢用 渦流浴の体験 ４　圧迫（浮腫除去）療法　浮腫のメカニズム　疾患と浮腫 ５　弾性包帯の巻き方　実技 ６　オリエンテーションと電気療法の基礎 ７　神経筋電気刺激/治療的電気刺激 ８　経皮的電気刺激/機能的電気刺激 ９　光線療法の特徴と皮膚整理機能 １０　紫外線療法/赤外線療法 １１　レーザー療法/持続的他動運動（CPM 療法） １２　牽引療法 １３　牽引療法　実技、総復習 １４　国家試験問題解説 １５　総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	出席点、小テスト、筆記試験を総合して評価		
教科書 Textbooks	「物理療法学テキスト　改訂第３版」　南江堂		
備 考 Other Comments	電気療法、圧迫療法の演習 適時小テストの実施		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**義肢装具学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	橋本　寛	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	義肢装具士
講義概要・ 到達目標 Course Description・Course objectives	義肢の概観を学び、リハビリテーションとの関連や基本原理を講義します。基本的な義肢装具の用語や概念が説明でき、基本原理を理解応用できるようになることを到達目標とします。見本や臨床例などを交えて講義を行います。アクティブラーニングの手法を織り交ぜて実施しますので、積極的に参加してください。また他の専門科目の知識を活用して理解を深めるようにしてください。		
授業計画 Course Content	※（　）内は教科書の章　例：１－１…第１章１ １　義肢装具　総論　切断とリハビリテーション（１－１，１－２） ２　義手概論（種類、名称、機能、構造） ３　義足の種類と構造①　下腿義足（２－４） ４　義足の種類と構造②　足部　ミニグループワーク下腿義足（２－４） ５　義足の種類と構造③　大腿義足（２－４） ６　義足の種類と構造④　大腿義足 ７　下肢切断のリハビリテーション（２－５．２－６） その他の義足、大腿義足、下腿義足のリハビリテーション１－１１，１２，１３） ８　スポーツ義足（２－７）　義肢まとめグループワーク ９　装具とリハビリテーション（３－１） 10　脳卒中片麻痺の装具①　（３－２） 11　脳卒中片麻痺に装具②　（３－２）　長下肢装具のチェックアウト、下肢装具実習 12　脳卒中片麻痺の装具③　（３－２ 13　脊髄損傷の装具　（３－３） 14　様々な装具　運動器疾患の装具、側弯症装具　（３－４，５） 小児疾患の装具　足部障害の装具　（３－６、７） 15　義肢装具学まとめ　グループワーク（課題割り当て） ※・授業の進捗状況に応じて、進度を変更することがあります。 ・理解する項目や覚える事柄が多く出てきます。各回で復習をいれますので、丸写しにせず、“思い出す努力”をしながら理解し、ほかの人に説明できるようになってください。 ・適宜討論や発表、指名発言を求めますので、積極的に参加してください。		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	最終試験合計６０％以上を合格とします。試験範囲は教科書及び講義中の配布資料とします。		
教科書 Textbooks	「Crosslink　理学療法学テキスト　義肢装具学」　メジカルビュー社		
備 考 Other Comments	教科書「義肢装具学」(「Crosslink　理学療法学テキスト　メジカルビュー社」を使用し、不足部分を講義の配布資料で補います。平常点は、授業への積極的な参加（発表、討議、質問）とします。		
実務経験内容			

科目名 Course title	**義肢装具学Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田　勝文	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	切断患者に対する理学療法士の役割を理解する 断端管理を理解し、弾性包帯を断端に巻くことが出来るようになる 義足装着前後の理学療法を理解する		
授業計画 Course Content	１　下肢切断　概論 ２　切断術後の機能障害 ３　切断術後の断端管理 ４　義肢について ５　義肢アライメントについて ６　下肢切断患者の評価 ７　下肢切断患者の理学療法（訓練） ８　模擬義足でのアライメント修正・訓練		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。		

科目名 Course title	**日常生活動作学Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森谷　伸樹	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床および国家試験で頻出の疾患について復習すると共に、その疾患における日常生活動作の特徴を学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　ADL 概論 ２　脳血管障害の ADL ３　脳血管障害の ADL ４　脊髄損傷の ADL ５　脳性麻痺の ADL ６　関節リウマチの ADL ７　人工股関節全置換術の ADL ８　切断の ADL ９　呼吸器疾患の ADL １０　循環器疾患の ADL １１　パーキンソン病、脊髄小脳変性症の ADL １２　筋萎縮性側索硬化症、多発性硬化症の ADL １３　筋ジストロフィーの ADL １４　高次脳機能障害の ADL １５　自宅退院を想定した ADL 評価		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	標準理学療法学専門分野　日常生活活動学・生活環境学　第６版（医学書院）		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**神経理学療法学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脳卒中片麻痺の障害像と理学療法評価について、講義資料・書籍を使用し、なるべく理解しやすいようにすすめる。VTR を用いて、視覚的な理解を深めるとともに、実技も多く取り入れ、障害像の理解を深める。		
授業計画 Course Content	１　脳卒中片麻痺の概論 片麻痺の障害像（１）感覚障害、運動障害、脳神経障害、構音障害、嚥下障害 ２　脳卒中片麻痺の概論 片麻痺の障害像（１）感覚障害、運動障害、脳神経障害、構音障害、嚥下障害 ３　片麻痺の障害像（２）意識障害、高次脳機能障害 ４　片麻痺の障害像（２）意識障害、高次脳機能障害 ５　片麻痺の障害像（３）陽性徴候と陰性徴候について 主な合併症、呼吸器系の異常、廃用症候群、過用症候群 ６　片麻痺の障害像（３）陽性徴候と陰性徴候について 主な合併症、呼吸器系の異常、廃用症候群、過用症候群 ７　片麻痺の障害像（４）立ち直り反応、平衡反応、姿勢筋緊張、筋緊張の評価、バランスの評価 ８　片麻痺の障害像（４）立ち直り反応、平衡反応、姿勢筋緊張、筋緊張の評価、バランスの評価 ９　片麻痺の評価（１）　症例を通じて評価の意義を理解する １０　片麻痺の評価（１）　症例を通じて評価の意義を理解する １１　片麻痺の評価（２）　評価項目について、ブルンストロームテスト、片麻痺の回復過程について １２　片麻痺の評価（２）　評価項目について、ブルンストロームテスト、片麻痺の回復過程について １３　片麻痺の評価（３）片麻痺の評価に対する考え方 歩行パターン、分まわし、反張膝、尖足位の異常歩行をグループで分析 １４　片麻痺の評価（３）片麻痺の評価に対する考え方 歩行パターン、分まわし、反張膝、尖足位の異常歩行をグループで分析 １５　片麻痺の評価（４）　前回のつづき １６　片麻痺の評価（５）　前回のつづき １７　CVA の原因とリスク １８　筋緊張・感覚の評価と治療 １９　歩行の評価と治療 ２０　症例検討評価 ２１　症例検討評価と治療プログラム ２２　症例検討評価と在宅目指しての治療プログラム ２３　実技（臥位や立位への促通など）		
成績評価の方法・ 基準・評価	筆記試験		
教科書	「脳卒中理学療法の理論と技術　改訂第３版」　メジカルビュー社 「脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション」　市村出版		
備 考	ＰＣ、プロジェクター、ＤＶＤ、実技室等も用いる		

科目名 Course title	**小児理学療法学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	荒川　鉄也	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	正常発達と異常発達についての理解を深める。 小児疾患についての理解を深め、理学療法を行う上での知識・技術を習得する。		
授業計画 Course Content	１　小児理学療法の総論・運動発達の理解 ２　正常発達／粗大運動・微細運動の発達 ３　発達と評価 ４　正常姿勢反射① ５　正常姿勢反射②・異常姿勢反射 ６　脳性麻痺に対する理学療法　総論 ７　脳性麻痺に対する理学療法　痙直型① ８　脳性麻痺に対する理学療法　痙直型② ９　脳性麻痺に対する理学療法　アテトーゼ型 １０　小児整形外科疾患に対する理学療法 １１　重症心身障害に対する理学療法 １２　筋ジストロフィーに対する理学療法 １３　ダウン症候群に対する理学療法 　　発達障害に対する理学療法 １４　ハイリスク児・低出生体重児・小児呼吸器障害児に対する理学療法 １５　まとめ・復習		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法学　小児理学療法学テキスト　改定第３版」　南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１３年の経験を有する。		

科目名 Course title	**脊髄損傷理学療法学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	宮下 創	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	脊髄損傷の病態と理学療法について講義と実技をとおして学習する。		
授業計画 Course Content	１　脊髄損傷の総論 ２　脊髄損傷の疫学 ３　脊髄損傷の予後 ４　脊髄損傷のの評価（完全損傷） ５　脊髄損傷の評価（不完全損傷） ６　脊髄損傷の運動療法（完全損傷） ７　脊髄損傷の運動療法（不完全損傷） ８　脊髄損傷の動作分析（実技） ９　脊髄損傷の運動療法（実技） １０　脊髄損傷の介助誘導方法 １１　回復期リハビリテーションにおける脊髄損傷の理学療法 １２　急性期リハビリテーションにおける脊髄損傷の理学療法 １３　脊髄損傷の合併症 １４　脊髄損傷の車いす操作方法 １５　まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「脊髄損傷理学療法マニュアル　第２版」　文光堂		
備 考 Other Comments	実技を行うため、ジャージ着用のこと。		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１４年の経験を有する。		

科目名 Course title	**運動器理学療法学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師・教員（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／２単位
授業方法 Teaching Methods	４５時間／講義・演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	○股関節障害の代表的変形性股関節および大腿骨頚部骨折の理学療法について概説する。 ・変形性股関節症　　病態生理・評価の画像評価が説明できる。 ・大腿骨近位部骨折　　病態生理・評価の説明ができる。 ○臨床でよく遭遇する腰椎関連疾患を中心に、病態とその評価・治療方法について実技指導も踏まえて講義する。 ○膝関節疾患(OA・TKA・骨折・ACL-R)の病態解釈から理学療法について、実技を含めた講義を実施する。 ○臨床現場でよく遭遇する足関節疾患を中心に急性期～機能回復期の理学療法プロセスについて評価・治療方法（実技指導）を踏まえて講義する。 ○臨床現場で診療することが多い肩関節疾患を中心に、病態や解釈の仕方・病態に応じた評価及び治療について講義する。また評価・治療に関しては、実技での演習も行いながら、実際に体験していただきながら講義を行う。		
授業計画 Course Content 成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	１　変形性股関節症について ２　大腿頚部・転子部骨折について ３　股関節疾患の評価実技を行う ４　超音波エコー:エコーの基礎 ５　超音波エコー:足関節 ６　超音波エコー:膝関節　① ７　超音波エコー:膝関節　② ８　超音波エコー:肩関節　① ９　超音波エコー:肩関節　② １０　超音波エコー:肩関節　③ １１　超音波エコー:まとめ （評価：小テスト、定期テスト、レポート） １２　膝 OA・RA の病態や違いについて　TKA 術後の理学療法 １３　膝関節骨折（プラトー骨折・膝蓋骨骨折）術後の理学療法 １４　ACL 損傷について、再建術後のメディカル・アスレティックリハビリテーション １５　非特異的腰痛の理学療法 １６　椎体骨折並びに腰椎分離症の理学療法 １７　腰部脊柱管狭窄症・腰椎椎間板ヘルニアの理学療法 （評価：定期テスト） １８　足関節疾患（足関節果部骨折）の病態解釈と理学療法 １９　足関節疾患（アキレス腱断裂など）の病態解釈と理学療法 ２０　足関節疾患（足関節捻挫）の病態解釈と理学療法 ２１　肩関節疾患（肩関節周囲炎）の病態解釈と理学療法 ２２　肩関節疾患（腱板断裂）の病態解釈と理学療法 ２３　肩関節疾患（上腕骨近位部骨折）の病態解釈と理学療法 （評価：筆記試験の点数） 学習課題ノートの作成を評価し、補点を行う（千葉先生）		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法　運動器障害理学療法学テキスト 改訂第２版」　南江堂		
備 考 Other Comments	なし		

科目名 Course title	**神経筋難病理学療法学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	向井　公一	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法の対象患者の中に、神経難病と言われる疾患を抱える方々が多い。中でも、神経筋疾患は重篤な機能障害や活動制限を有することがあり、理学療法の重要性が言われる。 この神経筋疾患の疾患概要と理学療法の繋がりについて学ぶ。		
授業計画 Course Content	１　ガイダンス／多発性硬化症について ２　多発性硬化症の理学療法について ３　錐体外路系疾患について① ４　錐体外路系疾患について② ５　脊髄小脳変性症について① ６　脊髄小脳変性症について② ７　筋委縮性側索硬化症について① ８　筋委縮性側索硬化症について② ９　筋委縮性側索硬化症について③ １０　ギランバレー症候群について① １１　ギランバレー症候群について① １２　筋疾患について（DMD、PN、MG）① １３　筋疾患について（DMD、PN、MG）② １４　筋疾患について（DMD、PN、MG）③ １５　まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	定期試験と日々の出席を総合的に勘案して評価を行います。 実技を含むため、できる限り出席すること。		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法学シリーズ　神経筋障害理学療法学テキスト 第３版」　南江堂		
備 考 Other Comments	実技も含めて行うので、実習のできる格好で臨むこと（実習は事前に通知）		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験２０年の経験を有する。		

科目名 Course title	**呼吸理学療法学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田　達成	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	講義概要 呼吸管理に必要な解剖・生理学の復習と血液ガスの解釈、肺機能とその検査法について 呼吸器疾患に対する評価・治療の流れと、リハビリテーションに必要な知識について 到達目標 座学の知識から臨床思考へ移行する１歩目にし、興味を持つきっかけにすると共に呼吸に関する評価項目の列挙が、疾患別また症状別にできる。 また血液ガスの解釈、肺機能とその検査法から必要な情報を読み取りリスク管理・病態把握に繋げ、解剖・生理学の知識から呼吸器疾患のより深い理解や理学療法の対象を明確化できる。		
授業計画 Course Content	１　はじめに呼吸療法総論 ２　呼吸管理に必要な解剖・生理 ３　血液ガスの解釈 ４　呼吸リハビリテーションの評価。ADL・QOL の評価 ５　呼吸不全の概念と病態 ６　各疾患別の病態と理学療法（COPD） ７　各疾患別の病態と理学療法（拘束性肺疾患） ８　各疾患別の病態と理学療法（ARDS の呼吸管理と理学療法） ９　各疾患別の病態と理学療法（睡眠時無呼吸症候群、肺がん） １０　各疾患別の病態と理学療法（肺炎） １１　開胸術後の理学療法 １２　人工呼吸器とその適応・離脱 １３　在宅での呼吸リハビリテーション、在宅人工呼吸療法 １４　新生児・乳幼児の呼吸管理 １５　排痰法、気管吸引		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法シリーズ　内部障害　理学療法テキスト改訂第３版」　南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**心血管理学療法学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	原田 靖章	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	循環器疾患に関する理解を深め、リハビリテーションを行う目的を学ぶ。 循環器疾患に対するリハビリ（心臓リハビリテーション）を行う上での評価、方法、リスク管理を理解する。		
授業計画 Course Content	１　心臓リハビリテーション総論 ２　循環器系の基礎（解剖、生理、血圧、心拍数） ３　心電図の基礎 ４　運動負荷試験、運動生理 ５　心筋梗塞（虚血性心疾患）に対するリハビリテーション ６　大動脈疾患、動脈系抹消循環障害に対するリハビリテーション ７　心不全に対するリハビリテーション ８　フィジカルアセスメント		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法シリーズ　内部障害　理学療法テキスト改訂第３版」　南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務 経験内容	理学療法士として臨床経験１７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**糖尿病理学療法学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	梅田 達成	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	糖尿病の内科的知識から理解を深める。その上で運動療法が糖尿病に与える効果や運動処方の根拠を基礎医学的な知見を踏まえ学習する。		
授業計画 Course Content	１　糖尿病とは ２　糖尿病の急性合併症 ３　糖尿病の慢性合併症（網膜症） ４　糖尿病の慢性合併症（神経障害　腎症） ５　運動療法が糖尿病に与える効果 ６　運動療法処方の実際とその理論的背景１ ７　運動療法処方の実際とその理論的背景２ ８　運動療法処方の実際とその理論的背景３		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	「シンプル理学療法シリーズ　内部障害　理学療法テキスト改訂第３版」　南江堂		
備 考 Other Comments	なし		
実務 経験内容	理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**スポーツ理学療法学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師（理学療法士）	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講義では、スポーツ障害に対する理学療法について解説する。スポーツ障害を下肢のスポーツ障害（足関節捻挫、膝前十字靭帯損傷、Jones 骨折など）、上肢のスポーツ障害（投球障害肩、野球肘など）、成長期のスポーツ障害（腰椎分離症、筋筋膜性腰痛症、オスグッド・シュラッター病、シンスプリントなど）プログラムについて解説し、実技含めて解説する。また、各疾患に対する理学療法実施場面における注意点や実際について解説する。		
授業計画 Course Content	１　授業の進め方と評価についてオリエンテーション ２　足関節捻挫対する理学療法 ３　膝前十字靭帯損傷に対する理学療法 ４　疲労骨折（Jones 骨折）に対する理学療法 ５　投球障害肩に対する理学療法①前編 ６　投球障害肩に対する理学療法②後編 ７　野球肘に対する理学療法①前編 ８　野球肘に対する理学療法②後編 ９　投球障害肩に対する下肢・体幹への理学療法 １０　腰椎分離症や筋筋膜性腰痛症に対する理学療法① １１　腰椎分離症や筋筋膜性腰痛症に対する理学療法② １２　オスグッドーシュラッター病やシンスプリントに対する理学療法① １３　オスグッドーシュラッター病やシンスプリントに対する理学療法② １４　成長期に対する理学療法の実際・注意点 １５　スポーツ理学療法まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	・試験（筆記）35% スポーツ理学療法の意義や方法を理解しているか否かで評価する。 ・授業内課題 35% 授業内容を踏まえて、スポーツ理学療法の意義や方法について、論理的な考察を行い、適切にまとめられているかを評価する。 ・授業態度およびプレゼンテーション 30% グループで分担、協力し、責任をもってやり遂げたかを、次の観点から評価する。 １．実験プロトコルの内容と作成方法 ２．実験準備と手順 ３．データ処理および発表資料の作成 ４．発表と質疑・応答の対応		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	プリント配布予定		
実務経験内容			

科目名 Course title	**動物介在療法学Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	山本　妃呂己　磯脇　知世	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	―
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	【講義概要】 すでに１年次後期の動物介在療法Ⅰでは、馬介在療法（Horse-assisted Therapy）について概論的に学び、馬の特徴、人と馬の関係、人と馬の類似点、馬のリハビリテーションへの活用方法、馬と社会資源などについて大まかに知識を得た。 この講義では、実際に馬介在療法を児童福祉施設で実践・活用している理学療法士、作業療法士をお招きし、馬介在療法の上でどのように実施して理学療法、作業療法を実践するのか、実践例や実技を交えて学んでいく。また、理学療法士、作業療法士が馬介在療法を使って支援する際、どのように評価、プログラム立案をするのか、その考え方の基礎を学ぶ。さらに、馬介在療法を実践する際は、数名のスタッフが連携して実施することが多いため、その際の多職種連携についても学ぶ。 【到達目標】 ①　馬介在療法を実践する上での理学療法的な評価の視点を理解する。 ②　馬介在療法を実践する上での作業療法的な評価の視点を理解する。 ③　馬介在療法を実践する上での支援の基本的な考え方を理解する。 ④　リハ職が馬介在療法を実践する際の多職種の連携を理解する。		
授業計画 Course Content	１　馬介在療法と理学療法について 理学療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 ２　馬介在療法を介しての理学療法評価上の視点について 特に基本的な身体機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 ３　馬介在療法を介しての理学療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における理学療法評価の視点を学ぶ。 ４　馬介在療法を介しての理学療法的支援について、多職種連携の視点について 理学療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 ５　馬介在療法と作業療法について 作業療法士が馬介在療法を実践するとはどういうことか、専門性は何かについて学ぶ。 ６　馬介在療法を介しての作業療法評価上の視点について 特に応用動作的な評価、精神機能面を評価する際に重要な視点について学ぶ。 ７　馬介在療法を介しての作業療法評価についての実践例 実際に馬を活用しての実技を通して、馬介在療法における作業療法評価の視点を学ぶ。 ８　馬介在療法を介しての作業療法的支援について、多職種連携の視点について作業療法計画を立てる際の重要な視点を学ぶ。また、馬介在療法は複数のスタッフで実践することが多いので、多職種の連携の必要性を学ぶ。 ※講義は、馬の体調や天候、学生の理解によって順番が変わることがある。		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	主に講義態度（出席など）と筆記試験		
教科書 Textbooks	適宜指示する		
備 考 Other Comments	馬を使った実践をするため、服装に留意すること。 動物アレルギーのある者は事前に申し出ること。		

科目名 Course title	パーソナルトレーニング論	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	杉本　拓也	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	本講義では、人々のスポーツをする・観る・読む・聞く等の要求を自身で理解し、対象者に対して適切なトレーニング方法を知ること、また、医療だけでなく、様々な状況を視野に入れながら対象者に適切なトレーニング方法を提供できるよう指導力を身につけるため、正しい指導法を理解することを目的とする。		
授業計画 Course Content	１　エクササイズサイエンス① 筋系・神経系・骨格系の構造と機能 ２　エクササイズサイエンス② 生体エネルギー機構、レジスタンストレーニングへの適応 ３　エクササイズサイエンス③ 有酸素性持久力トレーニング、栄養学 ４　エクササイズテクニック① 柔軟性、自重、スタビリティーエクササイズ ５　エクササイズテクニック② レジスタントトレーニングのエクササイズ ６　エクササイズテクニック③ 持久力トレーニングのプログラムデザイン ７　エクササイズテクニック④ プライオメトリックトレーニングとスピードトレーニング ８　エクササイズテクニック⑤ アスリートを対象としたレジスタンストレーニング		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	NSCA パーソナルトレーナーのための基礎知識		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１７年の経験を有する。		

＝地域理学療法学＝

科目名 Course title	**生活環境論**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	成田　亜希	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	理学療法士が臨床で行う家屋評価・整備について理解する。 福祉住環境整備の必要性、評価の重要性、対象者や家族への説明の重要性、整備の技術や手順、疾患別での特性などについて理解する。また、バリアフリー、ユニバーサルデザイン、新バリアフリー法について理解する。 家屋平面図の記載方法を理解する。 事例を挙げ、家屋整備を検討する。		
授業計画 Course Content	１高齢者を取り巻く社会状況と住環境 ２高齢者を取り巻く社会状況と住環境 ３福祉住環境整備の共通基本技術 ４福祉住環境整備の共通基本技術 ５疾患別・障害別福祉住環境整備 ６疾患別・障害別福祉住環境整備 ７家屋平面図の記載について（自宅平面図を書こう！） ８家屋平面図を作成し問題点・解決策を検討する（事例提示）		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	小テスト 課題（平面図） 筆記試験の合算		
教科書 Textbooks	なし。適宜資料を配布する。		
備 考 Other Comments	参考図書：「福祉住環境コーディネーター検定試験　２級テキスト 改訂６版」東京商工会議所 毎回、復習テスト（小テスト）を行います。必ず復習し、次の講義までに理解し、覚える習慣を身につけましょう！		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	**検査測定実習**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	２年次　前期／２単位
授業方法 Teaching Methods	８０時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	(1) 意義や目的を理解して、検査測定を実施すること。 (2) オリエンテーション技術向上。 (3) 可能な範囲で情報収集、面接、動作観察（できれば分析）、検査測定等を経験し、知識、技術を向上させること。 (4) 評価実習の前段階として検査測定等から評価における専門知識と専門技術を整理すること。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習成果		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	課題：実習日誌、感想文		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員５年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**評価実習**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	２年次　後期／４単位
授業方法 Teaching Methods	１６０時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	(1) 面接過程、評価過程に必要な知識・技術の整理をすること。 (2) 評価過程（情報収集、面接、検査、測定、統合と解釈、問題点抽出)、目標設定、治療プログラム作成等を体験すること。 (3) 治療実習の前段階として、評価から治療の専門知識と専門技術を整理すること。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習前評価を受講すること 実習成果と実習後評価の合算		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	課題：実習日誌、感想文、レジメ		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員５年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		

講 義 概 要

2025 年度　理学療法学科
3 年生

阪奈中央リハビリテーション専門学校
理学療法学科

《専門基礎分野》＝疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進＝

科目名 Course title	**臨床薬学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	前田　和宏	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	薬剤師
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	薬理の理解に対し、薬物の基本および対象疾患と薬物療法、副作用の話を中心に行う。		
授業計画 Course Content	１　薬理学総論：医薬品とその適切な使用の根拠となる薬理学の基礎知識を深め、薬物療法の基礎概念を学ぶ。 ・医薬品の分類と法律・作用原理について（薬物動態・薬物代謝を含む） ・好ましくない副作用（有害作用）と薬物相互作用 ・リスクマネージメント（多剤服用症状を含む）と薬物依存・耐性 ２　感染症、炎症の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 ３　神経疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 ４　精神疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 ５　循環器系疾患の薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 ６　疼痛の制御と薬物療法：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。 ７　注意すべき頻用される薬物と要点チェック：その主要薬物の薬理作用・副作用とはどういうものか、薬物の作用機序、生体内動態、薬理作用と副作用の関係、及び使用法について学ぶ。併せて講義の要点を復習する。 ８　総復習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	終講試験にて、その習熟度を判定する。		
教科書 Textbooks	リハベーシック　薬理学・臨床薬理学		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	**臨床栄養学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	安永 龍子 ・ 島村 知歩	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	（栄養学） 目的：近年、リハビリテーションの効果と栄養をはじめとした身体状況との関連が注目をあびている。特に入院治療者には、低栄養状態も多いと報告され、栄養改善なしには治療効果は見込めない。今後、栄養状態の回復のためのチーム医療の一員として、また退院後の治療効果向上のための栄養学の知識を習得する。 概要：①１日のエネルギー量の算出方法と摂取する食品群の量、主食・主菜・副食のバランスから「健康な食事」について知る。②「まれに・ときどき」見られる栄養素欠乏と身体的臨床所見を知る。③特にビタミン・ミネラルの体内作用と欠乏症を知る。④病態に応じた栄養管理の基礎を学ぶ。 （保健学） 保健学は、健康の探求とその維持増進を目的とする諸科学を統合した人の生命、健康に関わる学問です。健康を維持増進させるための様々な保健活動を理解し、疾病予防や医療人と しての自分自身の健康管理について考えることができることをねらいとします。 「国民衛生の動向」を参考にし、どのような保健活動が行われているのかを学習します。		
授業計画 Course Content	（栄養学） １　必要エネルギー量（健常時・疾病時）と「健康な食事」 ２　栄養素欠乏時の臨床所見 ３　ビタミン・ミネラルの体内作用 ４　病態に応じた栄養管理と食事指導 （保健学） ５　保健学とは ６　生活習慣病対策について ７　健康増進対策について ８　老人保健について		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	（栄養学） 筆記試験（持ち込みについては講義にて提示する） （保健学） 筆記試験、（その他があれば講義にて提示する）		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	（保健学：参考）厚生の指標　増刊　「国民衛生の動向」　財団法人厚生統計協会 講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	**画像診断学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	レントゲン画像から理学療法実施上の留意点について説明できる CT,MRI 画像から理学療法実施上の留意点について説明できる		
授業計画 Course Content	１　画像検査について ２　画像のみかた（レントゲン） ３　画像のみかた（ＣＴ） ４　ＭＲＩの特徴と見方① ５　ＭＲＩの特徴と見方② ６　内科疾患の画像読影 ７　脳の機能解剖 ８　脳画像の診方		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

《専門分野》＝基礎理学療法学＝

科目名 Course title	**理学療法研究概論**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	森谷　伸樹	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	理学療法の EBM に必要な研究法について学ぶ。研究法の基礎を学ぶこと、理学療法士国家試験に頻出の知識について触れること、研究内容に応じて研究法を選択できることを到達目標とする。		
授業計画 Course Content	１　統計学の基礎、データの尺度・特性値・グラフ ２　推定と検定の基礎、2 標本の差の検定ーパラメトリック法(1) ３　1 標本の差の検定ーパラメトリック法(2)、差の検定ーノンパラメトリック法(1) ４　相関、回帰分析 ５　重回帰分析、分割表の検定 ６　一元配置分散分析、反復測定の分散分析 ７　信頼性係数、多重ロジスティック回帰分析 ８　検査値の判断指標、まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験を行う		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments			
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**基礎理学療法学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数教員	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要等	基礎科目の確立。 まずは、国家試験に触れて慣れる。 国家試験の構成を理解し、どのような問題がどのような形で出題されるのか、またどの様に解答するべきかを理解する。 重要な問題、よく出題される問題の理解を高める。 自身でまずは学習しまとめる。		
授業計画 Course Content	１　脳血管障害　共通　① ２　脳血管障害　共通　② ３　脳血管障害　共通　③ ４　脳血管障害　専門　① ５　脳血管障害　専門　② ６　脳血管障害　専門　③ ７　代謝疾患　① ８　内分泌疾患　② ９　消化器疾患　③ 10　整形外科疾患（脊椎） 11　整形外科疾患（熱傷・膝） 12　整形外科疾患（スポーツ・小児） 13　整形外科疾患（骨折・脱臼） 14　整形外科疾患（神経障害） 15　整形外科疾患（上肢）		
成績評価等	中間試験５０点、終講試験５０点		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments	参考図書「クエスチョン・バンク　２０２１　理学療法士　共通・専門問題」メディックメディア		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。他		

科目名 Course title	**基礎理学療法学Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	赤松　真吾	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標　Course Description・Course objectives	実習前後の知識レベルの確認 国家試験、特に実地問題を解答するのに必要な知識を整理する		
授業計画 Course Content	１　脊損 ２　義肢 ３　装具 ４　神経疾患 ５　筋疾患 ６　小児疾患 ７　呼吸器疾患　① ８　呼吸器疾患　② ９　呼吸器疾患　③ １０　循環器疾患　① １１　循環器疾患　② １２　循環器疾患　③ １３　まとめ　① １４　まとめ　② １５　まとめ　③		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	参考図書：「クエスチョン・バンク　２０２１　理学療法士　専門問題」メディックメディア		
実務経験内容	理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**理学療法管理学Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高木　綾一	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標　Course Description・Course objectives			
授業計画 Course Content	１　リハビリテーションとは ２　リハビリテーションを取り巻く環境 ３　地域包括ケアシステムとは ４　理学療法士が活躍する分野 ５　診療・介護報酬　書類管理 ６　多職種連携　カンファレンス ７　安全管理学 ８　理学療法機器の保守点検		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	リハビリテーション職種のマネジメント　株式会社シービーアール		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	**理学療法管理学Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	高木　綾一	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標　Course Description・Course objectives			
授業計画 Course Content	以下の内容を８回で行う ・理学療法の実施後の診療記録と書類管理（電子カルテ等） ・理学療法の実施に関わるカンファレンス ・理学療法機器の配置計画 ・人事考課 ・労務管理		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	リハビリテーション職種のマネジメント　株式会社シービーアール		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	がんリハビリテーション	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／演習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・到達目標　Course Description・Course objectives	がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割を説明できる がんのリハビリテーションにおける理学療法について説明できる リンパ浮腫に対する理学療法について説明できる		
授業計画 Course Content	１　がんのリハビリテーションの概要 ２　がんの治療法・評価方法 ３　がんのリハビリテーションの実際 ４　骨転移について ５　がん細胞の基本的特性について ６　がん悪液質について（症例検討を含む） ７　リンパ浮腫 ８　心のケアとリハビリテーション		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	試験		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		
実務経験内容	川原　勲：理学療法士として臨床経験３３年の経験を有する。 厚地　里香：理学療法士として臨床経験９年の経験を有する。		

科目名 Course title	**理学療法治療演習Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	桶田 勝文/宮脇	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	臨床で求められる治療能力の向上を図る。 運動器、脳血管障害に応じて基本的な運動療法が実施できるようになることを目的とする。		
授業計画 Course Content	1、 治療プログラムの立案 2、 総論　運動療法の種類と適応、関節可動域制限に対する理学療法 3、 実技　上肢の伸張運動と関節内運動 4、 実技　上肢の伸張運動と関節内運動 5、 実技　上肢の伸張運動と関節内運動 6、 実技　下肢の伸張運動と関節内運動、筋力増強 7、 実技　下肢の伸張運動と関節内運動、筋力増強 8、 概要　片麻痺に対する ADL 練習の進め方 9、 概要　片麻痺に対する ADL 練習の進め方 10、概要　片麻痺に対する ADL 獲得に向けて 11、概要　片麻痺に対する ADL 獲得に向けて 12、実技　立位・立ち上がり練習 13、実技　歩行練習 14、実技　歩行練習 15、実技　片麻痺に対する治療介入		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	初回講義にて提示（実技試験・演習課題の合算）		
教科書 Textbooks	なし（講義資料および既存の教科書を適宜利用）		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		
実務経験内容	桶田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員５年の経験を有する。		

科目名 Course title	**理学療法治療演習Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	和田　善行　中村　珍輔	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	３０時間／演習	実務経験	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	臨床で求められる評価・治療能力の向上を図る。 症例情報より障害の把握を行うことができる。 症例に応じた治療プログラムの立案と実施が出来る。		
授業計画 Course Content	1、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 2、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 3、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 4、 中枢神経障害に対する理学療法（川平法） 5、 循環器障害に対する理学療法 6、 循環器障害に対する理学療法 7、 呼吸器疾患に対する理学療法 8、 呼吸器疾患に対する理学療法 9、ロボティクスリハ 10、ロボティクスリハ 11　運動器・疼痛に対する理学療法　総論 12　運動器・疼痛に対する理学療法 13　運動器・疼痛に対する理学療法 14　小児に対する理学療法 15　小児に対する理学療法		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks			
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		
実務経験内容	臨床で各分野従事する理学療法士		

科目名 Course title	**総合理学療法学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・到達目標 Course Description・Course objectives	理学療法業務における多様な領域を総合的に理解し、説明できる。 （学校保健、国際支援、災害、産業、スポーツ、障害者スポーツ、ウイメンズ・ヘルス、メンズ・ヘルス） （産業）産業理学療法に必要な「知識・現状」の理解を目的とする。産業における理学療法士の貢献について考えることが出来る。		
授業計画 Course Content	・学校保健領域における理学療法士の役割 ・運動器検診とスポーツテストについて ・世界のリハビリテーション　国際協力について ・世界保健機関緊急医療チームとリハビリテーション ・災害時の理学療法 ・赤十字社の医療救護活動 ・ウイメンズ・ヘルス、メンズヘルスの理学療法 ・産業理学療法 ・障害者スポーツ ・スポーツ損傷膝の理学療法 ・投球障害の理学療法 ・スポーツ損傷の予防 ・実技、実習		
成績評価の方法・基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	なし（各講義での配布資料あり）		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

＝地域理学療法学＝

科目名 Course title	**予防理学療法**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	西川　正一郎	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	介護予防における理学療法士の役割について説明できる。 介護予防における理学療法について説明できる。		
授業計画 Course Content	１　予防医学・予防理学療法総論 ２　予防理学療法と施策　行政と経済的側面 ３　老年医学と予防理学療法（１）老年症候群 ４　老年医学と予防理学療法（２）認知症 ５　老年医学と予防理学療法（３）転倒・骨折 ６　老年医学と予防理学療法（４）フレイル，サルコペニア ７　疾患と予防理学療法（１）運動器疾患 ８　疾患と予防理学療法（２）呼吸器疾患（３）循環器疾患		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	筆記試験		
教科書 Textbooks	予防理学療法学要論　医歯薬出版株式会社		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

科目名 Course title	**地域理学療法学**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	複数講師	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／１単位
授業方法 Teaching Methods	１５時間／講義	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	リハビリテーションの理念・目的、地域リハビリテーションの理念・目的の理解の下、介護保険制度や地域包括ケアシステムの目的を理解する。その上で、理学療法士の専門性から、地域における理学療法士の役割について考え、理解する。 地域地学両方の現場をイメージできるようになることを狙いとする。 講義では、現場で求められる知識や技術が概説される。 地域で働く理学療法士にとって大切なこと、求められる能力についての理解を深めながら、 現場のイメージができるようになることをねらいとする。		
授業計画 Course Content	（２コマ各　担当講師変更） １・２　リハビリテーションの理念・目的／地域リハビリテーションの目的 介護保険制度の目的、基本理念、地域包括ケアシステムについて 理学療法士に求められる能力 ・望む生活を把握する ・業務連携について ・専門性の理解 地域理学療法とは 地域における理学療法士の役割 ３　患者援助に必要な面接技法 急性期病院・デイサービスでの理学療法 ４　患者援助に必要な面接技法 急性期病院・デイサービスでの理学療法 ５　地域理学療法における評価 老健施設・デイケア・訪問での理学療法 ６　地域理学療法における評価 老健施設・デイケア・訪問での理学療法 ７　回復期病院での理学療法 まとめ ８　回復期病院での理学療法 まとめ		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	平常点として、講義内に振り返りを行い確認.		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	講義内容については変更する場合がある。		

＝臨床実習＝

科目名 Course title	**治療実習Ⅰ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	３年次　前期／７単位
授業方法 Teaching Methods	２８０時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	実習指導者の指導（援助と助言）のもと、以下の項目を模倣～見守りにて実施できること。 （1）医療従事者としての基本的態度を定着させること。 （2）各疾患（障害）に即した検査測定が実施できること。 （3）検査結果の解釈、各症例の障害像を理解・把握できること。 （4）治療の目的に応じ標準的な治療を選択し、理論的に裏付けられたプログラムを設定できること。 （5）標準的な治療が安全かつ効果が期待できる方法で実施できること。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習前評価を受講すること 実習成果と実習後評価を総合的に判断する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	実習課題：実習日誌・感想文・レジメ		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員５年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		

科目名 Course title	**治療実習Ⅱ**	学 科 Department	理学療法学科
担当者名 Instructor	実習施設担当者・全教員	期間及び単位 Term/Credits	３年次　後期／７単位
授業方法 Teaching Methods	２８０時間／実習	実務経験 Experience	理学療法士
講義概要・ 到達目標 Course Description・ Course objectives	実習指導者の指導（援助と助言）のもと、以下の項目を模倣～見守りにて実施できること。 （1）医療従事者としての基本的態度を定着させること。 （2）各疾患（障害）に即した検査測定が実施できること。 （3）検査結果の解釈、各症例の障害像を理解・把握できること。 （4）治療の目的に応じ標準的な治療を選択し、理論的に裏付けられたプログラムを設定できること。 （5）標準的な治療が安全かつ効果が期待できる方法で実施できること。 （6）再評価を実施し、治療効果の判定、治療目標、治療プログラム等の再検討や修正ができること。 （7）症例の理学療法評価、治療を通じ研究の必要性を理解すること。		
授業計画 Course Content	（各実習施設による）		
成績評価の方法・ 基準・評価 Grading Policies Evaluation Criteria	実習成果と実習後評価を総合的に判断する		
教科書 Textbooks	なし		
備 考 Other Comments	実習課題：実習日誌・感想文・レジメ		
実務経験内容	赤松教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員２７年の経験を有する。 桶田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員１８年の経験を有する。 梅田教員：理学療法士として臨床経験５年及び専任教員７年の経験を有する。 宮脇教員：理学療法士として臨床経験８年及び専任教員５年の経験を有する。 高山教員：理学療法士として臨床経験１１年及び専任教員２年の経験を有する。 森谷教員：理学療法士として臨床経験１２年及び専任教員７年の経験を有する。		